

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

使徒のBETA

### 【作者名】

新グロモント

### 【あらすじ】

使徒の使い魔のレイアが別世界に送り込まれたお話です。

人類の寿命が残り10年と言われる世界でレイアが人類の為に色々模索して頑張る健気なお話です。

本作品は、作者が執筆している『使徒の使い魔』の外伝っぽいお話です。

時系列で言うと…『使徒の使い魔』の最終話ぢょっと前位のあたり。以前に作者が『にじファン』に投稿した物していた作品です。

完全ご都合主義

細かけえ事はいいんだよ

上記の二点が非常に大事な為、それを前提にお願い致します。

## 0-1話・プロローグ

透き通るような青空の元、完全な死を目前にしているレイアです。

「はあはあ、流石にもつ限界かな…」

まさか、ゼルエルとラミエルが全力で展開したA・Tフィールドを突き破られるとはね。おかげで 私は満身創痍だ。両足は吹き飛ばされて、左腕と左目も消滅した。血も流しすぎて、生きているのが不思議な状態だ。

流石は、使徒と言つたところだな。

だけど、そもそもそろそろ限界っぽいな。せめて、長年付き添つたラミエルだけでも無事でいてくれたら良かつたのだが…。

「ラ、ラミエル…」

私の声に呼応して、ラミエルのコアが弱弱しく発光した。

そうか…お前も限界なのか。「ごめんな、こんな所まで付きあわせてしまつて。段々と視界が狭くなってきた。ティファニア指輪の力で延命を図っているが、魔力がきれで年貢の納め時が来たようだ。

「は、はは…無様だな」

軽い気持ち…元の場所に帰るまでの時間つぶしで世界を救つてあげようかなと思い、陰ながら主人公sideに敵が行かないように、頑張ったというのにこの様とは笑い話もならない。

何もないだだつ広い空間に私の声が響く。

「ここで死んだら、流れに蘇生してもられないよね……ごめんねティファ。それとアンタの邪魔をして悪かったな」

私と同じよう横たわり死にかけている青白い生物に話しかけた。まあ、もつとも返事が返ってくることもないか。

「邪魔はしてしまったが…君も感謝してくれよ。私のA・Tフィールドが無ければ即死だったのだから…まあ、死ぬのが少し先延ばしになつただけだつたがね」

「……」

青白い生物が微妙に動いているのを確認した。

ふつ、お互に無駄に丈夫だと死にひらくて困るよね。苦痛が長引くだけだしね。

「空が青いな…」

地下数百メートルからはるか上空の空を見上げた。

今頃、人類は 同じ空の下で勝利の雄叫びを 上げているのだろう。

そう…ここに取り残された私を除いて!!

……

ふ、ふざけるな!!

なぜ、私がこんな田に合わねばならない。

ふざけるな!!

なぜ、一番頑張った私がこんな結末を迎えるなければならない。

ふざけるなあ!!

なぜ、私は人類の手によつて殺されなければならない。

ふざけるなあああ!!

身勝手ではあるがあまりにも理不尽で納得する事ができなかつた。  
間違いなくこの場に置いて人類に一番に貢献したであらう私に対してこの仕打ち…許せるはずもない。

「死んでたまるか…はあはあ、貴様等にも私の味わつた物を味あわせてやる!! 絶対に、ブチ殺してやる!!」

そうだ、生き残つてやる!!

例え、この身が人間でなくなるうとも最早厭わない。このままでは、生き残れる可能性は、皆無だ…しかし、可能性は低いが生き残れかもしれない策はある。

「すまない…ラミール。私の為に…」

私をいつも支えてくれた心の友よ。君がいたから私は、いつもさび

しぐは無かつた。本当にすまない。

君の犠牲は、無駄にはしない!!

「死んでくれ」

ガブリ

私は、ラミエルを「アゴ」と食らつた。

これは、賭けだ。体の欠損部分をラミエルで補う。そして、失いかけていた使途の力をラミエルのコアを食らい補充する。

本能が言つてゐる… これは、足りないと。

やはり、あれも食さねばならぬか…

ふふふふふ、上等だ！

「お互い、生き残る為だ共存しようぜ… BETAさんよ」

ガブリ

成功した暁には、期待しているぜ BETA。おさんの学習能力で早いところ G弾を無効化してくれよ。あれだけが、A・Tフィールドールドの脅威だからな。

## 022話・新種（笑）

BETAを食らつて一週間後。

結論から言つと、私は生き残つたのだ!! あの状態からよく生き残つたものだと今となつては褒めてやりたい位だ。だけど、当然その代償は大きかつた。

顔の右半分と心臓がある左胸部を除いて、人外へと変貌してしまつた。ラミエルのクリスタルに『あ号標的』が混ざつてできた特殊な体へと成り下がつてしまつた。だが、不幸中の幸いともいいくべきだろうか…容姿というか見た目だけはカヲル君を再現できている。

不幸中の幸いと言う奴だらつ。

だがお陰様で、私は今や使徒でありながら、地球上の全BETAを束ねる存在になつたのだ。超進化もいい所だ。

まさか、自分が倒そうとしていた存在に自分がなつてしまつとはね。人生分からぬ。

あれから人類側がどうなつたのかは知らないが、勝利に酔いしれながら世界各地にあるハイヴ攻略作戦が進行している。私が完全回復する間に随分と好き勝手やってくれたようだ。

!!

「くつ」

世界各地にいるBETAの悲鳴が私の脳内に響く。

上位存在というのも存外大変なものだ。凄まじい情報量が私の中を駆け巡っている。情報処理の方は、私の中で生きているBETAとラミエルに任せて、私は自分の作業に入るかな。

「待つていろよ 人類!! こんな体にされた恨みも込めて、たっぷりお礼をしてくれるわ」

人類にとつては、逆恨みもいい所と言いたいだろうが… そんな事どうでもいいのだ。事故であれ、私がいる事を知らなかつたにせよ!! 私ごとBETAを滅ぼそうとした事は紛れもない真実!!

では、人類抹殺のプランを教えよう。

皆さんは考えたことがあるだろうか… もしも、BETAの見た目が醜くなかつたらどうだつたのかと。そう、この作戦の要は ソコにあるのだ!!

原作通りの『あ号標的』には、人類の美的センスを理解できなかつただろう。しかし、今や『あ号標的』は私である!! と言つて、そつそく行動開始と行こうじやないか。

あれから、半月後。

今、元『あ号標的』が居たところに、たくさんのBETAが集まつてゐる。ちなみに、私お権限で集めた。だつて… 一人でいる寂しいんだもん。

それにして新種のBETA作りは、なかなか楽しかつた。やはり、モノづくりは私の性分のようだな。本来ならば、一種類だけ作る予定が何種類もの新種を作つてしまふとは… 私の才能が怖い位だ。

ちなみに、開発した新種は農作業用BETA、建築用BETAだ。こいつらには、人間が住む為の環境づくりをしてもらおう。

なぜ、そんな事をするかつて？

そりや…私の側に人類を引き込んで”人類 vs 人類”をやるからに決まっているだろう。人間同士が仲良く殺し合うなんて楽しもうじゃん…昨日の味方は今日の敵ってな感じでね。

そして、最後の紹介になつたが…これが私の今回の最大の成果ともいえる

「愛玩用BETAだあああああ!!!!」

人型で身長155位の女性だ。ちなみに、身長や容姿だが人類の保護欲をかき立たせるように製造している。無論、あらゆる面で人類と同じである。ただ、唯一違う事はBETAである為、私の絶対服従という一点だけだ。

そうそう…、子供も作れるし産める!! どうだ、参ったか!!

私の叫びに呼応して光線級や重光線級などが修理したばかりの天井に向けて盛大にビームを放つた。当然、天井がその威力に耐えきれるはずもなく天井の一角が落下してきた。

おいおい、喜んでくれるのはいいけど 手加減といつものをお覚えよづぜ。

デジドーナン

目の前で仲間が潰れるのは、目に余るので左手からラミエルの十八番である荷電粒子砲で落下してくる落盤を消滅させた。ラミエルを捕食融合した事で全身どこからでもビームが発射できるようになつたのだ。

まったく、手のかかる子達だ。

さて、後は人類側に宣伝を開始するかな。

## 03話・あ号標的

私は、人類に私という存在を認識させる為の行動に出た。

具体的に何をするかは簡単だ、地上で私の元にBETAを集めればいいのだ。ただそれだけで、相手は私という存在に釘付けになるだろう。BETAの行動には、細心の注意を払っているだろうしね。

後は、どの戦場を選ぶかだな。

世界各地にあるハイヴから私に情報が寄せられている中から最適な場所を選択する。なるべく、目立つ場所がよい。無理だらうけど：人が多い場所がベストだ!! 田撲者が多ければ多いほどこれは有効的なのだからね。

そして、私が選んだ場所はE.U…リヨンハイヴだ!! そこには、私の子供たちが巣を作つており、激戦区の一つでもある。まずは、ゼルエルを身に纏い、現地に急行した。

ちなみに、新種のBETAはまだオリジナルハイヴでしか生産しておらず各地には出回らせていない。なんせ、人型BETAは色々と作るのが大変なのだよ。人語を理解させる為に色々と手の込んだ調整が必要なのだ。

数時間後。

ふう…やはり、オリジナルハイヴからは思ったより距離があるね。

さて、まずは地上に出ているすべての子達を私の周囲に集めるとして。後は、相手からアクションをしてくれるはずだ。BETAを従

える人型の存在はなんなのか!　といった感じでね。

『私のかわいい? 子達よ、集まつておいで』

地下からも溢れんばかりのB E T Aが這い上がってきた。予想外に、集まりすぎたのでかわいそうだけど、半数は地下で待機させた。だつて、集まりすぎるとアメリカがG弾とか撃つてきそうだもんね。

今ここにB E T Aの大軍が集結した。また、精悍の一言に尽きる!! 半数でこの規模とは… B E T Aの物量に恐れ入ったわ。数の暴力とはこの事だね… まあ、人間相手にしか通じない手法ではありますだが…。

「さあ、人類よ!! 私はここに居る!! 早く迎えに来い」

10分後。

まあ、仕方ない。

相手もB E T Aの謎の行動に気付いているだろうが下手には動けないからね。

20分後。

きっと、軍隊のお偉いさん達が無駄な事を試行錯誤しているに決まっている。

だから、まだ待とう。

……

60分後。

さすがに、遅すぎるんじゃね!? もしかして、G弾フラグか!!

だが、上空は重光線級に警戒させていたる為、G弾らしきものが見えれば私は即座に戦線離脱予定だ。G弾といえども、近距離で凄乃皇の自爆クラスを食らわない限り生き残れる自信はある。…一度食らつた身である為、ある程度の耐性はついている。

90分後。

「は!! そつか、Eヒでは日本と違ひ謙虚さをアピールするのではなく……むつと積極的にアピールしないこと通じない」という事が!!」

「は!! そつか、Eヒでは日本と違ひ謙虚さをアピールするのではなく……むつと積極的にアピールしないこと通じない」という事が!!」

「は!! そつか、Eヒでは日本と違ひ謙虚さをアピールするのではなく……むつと積極的にアピールしないこと通じない」という事が!!」

『話がある。各國のお偉いこと会話できる準備をしておけ。それと、攻撃しないから迎えの戦術機を一機二機三機四機五機六機七機八機九機十機十一機十二機十三機十四機十五機十六機十七機十八機十九機二十機』

「これで、あとは相手が来るのを待つばかりだ。相手が来やすいやうにモーゼの十戒のようにBETAを左右に避けさせた。」

更に2時間後。

ようやく、迎えの戦術機が見てきた。

私のお迎えに来てくれたのは、EF 2000 タイフーンか…。と言つ事は、乗つている衛士は恐らくヒース級だうな。まあ、今この状況において衛士の実力など関係ないけどね。

戦術機が3km位まで近づいた辺りで、子供らに指示を出した。そう、万が一だ…あの戦術機がG弾を積んでいたら流石に不味いので、まずはボディチェックだ。しかし、当然相手の衛士は、罠に嵌められたなどと思うだろうと思い、私はプラカードを持たせたBETAを現地に派遣しておいたのさ。

まじ、この完璧な心遣いマジで自分を紳士だと思つ。

とりあえず、衛士を戦術機から降ろして戦術機を隅々までチェックさせた。なーに、戦術機の知識は〇〇ユニットから既に入手済みの為、点検など朝飯前だ。

結果…G弾は無かつたがS 11…通称『戦術核』が搭載されていた。当然、戦術核を無効化して全武装を解除させたよ。それにも、丸腰の私に少し対応が酷過ぎるんぢやない? あわよくば、殺してやろうという事か!?

あ…丸腰と言つても全裸じゃないぞ!! 廃墟にあつたものから比較的まともそうな服を頂戴して来ているのだからね!! こちらの世界に来た際に着ていた服やマントなどは、G弾のおかげで使い物にならなくなつたからね。

『私は、フランス陸軍第13戦術竜騎兵「自己紹介何でいいよ。さあ、

指令の元へ私を連れてってくれ』つ!!

相手の方は、人型である以上 もしかしたら言葉が通じるかもれないと思って自己紹介をしたのだろう。だが、あくまでも思っていただけのようだ。マイク越しに相手の驚きようがよくわかる。

まあ、BETAのリーディング能力を使えば、相手のすべてを読み取れるがそれではツマラナイ。相手は、当然私をコックピットになど入れてくれるはずもなく。仕方ないので、私が肩に乗っかり走れと命令をした。

フランス方面、前線基地にて。

すごく、厳戒態勢です。どの位かって？そりや…私を取り囲むように一個大隊以上の戦術機が展開しており、歩兵があらゆる場所から狙撃できるように私に照準を合わせている…その数、もう数えるのが面倒なくらいだ。

私は、戦術機の肩から飛び降りた。

「それで、お偉いさん方は何処かね？案内役さん」

私が戦術機を見上げると、戦術機が施設の入り口脳を指差した。そこには、司令官らしき男とその秘書らしき女性がいる。なるほど、自分のお役目はここまでと言う事か。

熱い視線の中を、基地に向かつて歩いて歩いていった。

「私が、基地指令のミハエル・バーナーだ」

いくら敵とはいって、挨拶をされたら返すのが礼儀だよね。私ってな

んて謙虚なのだろう。

「挨拶をされたら挨拶をし返すのが風習だったかな？ 私は、レイア・ライシス・ド・ヴェーグルだ」

私が挨拶し返すと基地司令と含め横にした女性までもが、まるで一生で一番驚いたと言う顔をしていく。

「良い名だらう。どうせ、この会話も映像も世界各国に流れているのだろう。偽名などではないが… データベースを紹介しても見つからないと思つよ。… それで、準備は終わつているのだろうね？」

まあ、幾ら検索を掛けられようがヒューティするはずもない。なんせ、私はこの世界の人間じゃないのだからね。同姓同名が居ないとも否定しきれないが… その場合は、その人には多大な迷惑が掛かる事は間違いない。人権無視の非道な扱いを受ける羽目になるだろうね。

「あ…ああ、こつちだ」

私は司令官に先導されて、基地内部へと移動した。暫く出来るか凶とでるか… まあ、わくわくするね。

基地内の某大部屋にて。

ディスプレイがこうも大量に並べられていると壯観だね。まじで、世界各国のお偉いさん方とリアルタイムで繋がっているらしい。

まあ、ディスプレイ以外にもいろいろと準備をしていたようだけどね… 時間が掛かったのはそれが原因かと文句を言ってやりたい。

おまけにこの大部屋には、数えるのも馬鹿馬鹿しい位の装置が隠さ

れている。そこまでして、私の正体を見たいのだろう。

「覗かれるのは好きじゃないのだがね。指令も貴重なEESP能力者をここに失いたくは無いだろう。数少ないオルタネイティブ計画の遺産だ…大事にした方がいいと思うよ」

指令が険しい顔をして何やら仲間に指示をした。

しばらくすると私を監視していた目が無くなつた。さて、これで気になる視線も無くなつたし、『ご対面と行こうじやないか。

「お見苦しい所をお見せしましたね、世界の皆さん。改めて自己紹介させてもらおう。レイア・ライシス・ド・ヴェーグルだ。…と言つても君たちにどうては、こういつた方がいいかな？ 私が今代の『あ号標的』だ」

## 04話・超ホワイト企業、行政法人BETA設立

私が名乗ると一瞬、人間たちは沈黙した。

私が新種のBETAである事位は、想像していただろう。だが、そのBETAがつい先日人類の総力を挙げて倒した『あ号標的』だとは思っていなかつたのだろう。

しかし、沈黙も一瞬で終わりを迎えた。ある意味流石といつべきだらう…私が対話している連中は世界が誇る敏腕政治家達と言つても過言ではないだろう。

### ザワザワ

対話が可能なBETAである事に加えて、地球上全てのハイヴを支配している最上位BETAである。人類にとって私の価値は、計り知れない存在だろう。実際、BETAと「コミュニケーション」を取る為に天文学的な予算を掛けてオルタネイティブ計画を実施していた位だからね。

何やらディスプレイ越しに、人間達は私と「コミュニケーション」を取る必死で会話を試みようとしている。簡単に纏めれば、『対話を望む』とか『お互い共存しよう』とか綺麗事ばかりぬかしてきやがる。

当然、無視だ。

「まあ、落ち着きたまえ。君たちが喋っているのは自由だが…私は自分の話を無視されるのは大嫌いなんだよ」

シーナー

つむ、実に素早い行動だ。

「そうだ、それでいい。悪いが一方的に話させてもうひつよ。今日は、君たちへの挨拶と吉報を持つてきてあげたのや。人類の時間にして一週間後、全人類に向けて重大な発表を行う。それに当たり、君達には私の声が世界に届くように準備をしてもらいうつ。当然、タダとは言わない。これから一週間は、全てのB E T Aに活動を停止させよう。もちろん、君達が攻めてこなければだけね」

まあ、いじに屈るメンツならば実現させられるだろう。なんせ、世界を牛耳っている連中と言つても過言ではないのだからね。さて、世界はどう出るかな？全面戦争か？それとも、微かな希望に掛けて一週間待つかな？

用件は済んだし、撤収させてもうひつ。お楽しみは一週間後だ。

『ま、待ってくれ！ 少しどいい、君と…いや、貴方ともうと話をさせてはもらえないか？』

私の正面という一番よいポジションにあつたディスプレイの主が話しかけてきた。どこに国かは分からぬが、可能性が高いのは米国だろうな。

「そんなに話したいか…では、会見を行つ場所は米国、ワイトハウス前としようか大統領」

私は、そのまま部屋を退場し基地の外に出た。

基地の外にて。

## ガシャガシャ

基地を出たら、入って来た時以上に人間が集まつてきている。しかも、全員重武装で武器に関しては実弾入りと見受けられる。おいおい、何処から湧いてきたんだ」「こいつら!?」と言いたくなるくらいの数だ。

「それで、基地司令。子供たちが待つてゐるから帰りたいのだが…道が塞がれていてね」

「いかがでしょ? 一週間…」の基地でお過ごになられませんか?  
? 最高の待遇をお約束いたします」

ふむ、最高の待遇か…それは、おいしいお誘いだけど。残念だけど、私はこれから愛玩用B E T Aの最終調整をしなきや、いけないから忙しいんだよ。

「断る!! 誰に命令されたから知らんが…押し通らせてもらおう

ふつ、パフォーマンスの意味も込めて私は、右手を前に突出し…ラミエルの荷電粒子砲を放つた。その瞬間、前を塞いでいた戦術機は勿論あらゆるもののが蒸発し、道が開けた。

ドコオオーナー

ふふふふふはははははははは

「なつ、今のは!?

なについて? かの有名な凄乃皇が搭載していたアレですよ。まあ、威力の方は比較にならない程のものだけどね。

「それでは、また一週間後に会いましょう。サ・ヨ・ウ・ナ・ラ」

私は、そのまま上空に飛び出して、オリジナルハイヴへと向かった。

世界のお偉いさんにメッセージを伝えてから一週間がたった。

あれから、一週間忙しかった。世界が混乱している隙について、各ハイヴの構造を改変し、戦力分も再構成させた。これで、人間側のカードを一枚潰せただろう。

ホワイトハウスのはるか上空から見下ろす光景は絶景だ。

「見ろ!! 人がごみのようだ」

某大佐の有セリフを言つてみたが：

「『主人様、意味がわかりません』

「『主人様、そろそろ向かわれた方がよろしいのでは?』

ぐずん

私の横にいる。一人のBETAが返事をした。

今回は、この子たちのお披露目も兼ねてるので調整が完了したばかりだが連れてきましたよ。男性に需要が高いだろうと踏んで作った『美少女型BETA』、そしてもう一人が今の世界状況を鑑みて作った『美少年型BETA』だ。

「アダム、イヴ。お前達には期待しているぞ」

名前は…まあBETA初の人型と言う事から有名な神話から採用しましたよ。

ホワイトハウス前にて。

そういうえば、米国つてまだBETAが踏み入れたことが無い土地だっだけ。という事は、私がBETAで初めての相手になるわけだ。

フミフミ

「ど、どうかされましたかミスター・レイア？」

私たちの案内役らしき人が私の謎の行動に疑問を持つたようだ。

「いや、米国に来るのは初めてでね。すこし、地面を踏みしめていたんだよ」

「そうですか。どうぞいらっしゃへ」

「うむ、苦しゅうない。

それにして、カメラとTVの数多すぎない？ 後、人間もシャレにならない数がいる。一体、どの様な宣伝をしたのだろうね…人間さんよ。

ホワイトハウス内の演説会場にて。

何処を見ても人人人…そして、あちこちに戦術機と強化歩兵がいるね。まあ、当たり前か…。

「何度も自己紹介は、面倒なのが…初めてまして人間の方々。

私は、レイア・ライシス・ド・ヴォーグルという。

今代の『あ号標的』と言つた方が分かりやすいかね？

ざわざわ

分かつてはいたが、毎度毎度この反応はウザつたい。

「《黙れ》」

魔法の力を使い、全員を黙らせた。ラミエルと『あ号標的』を取り込んだ事でこの会場全員を黙らせる事など朝飯前だ。

「安心しろ、ちょっとした暗示のような物だ。私が話し终われば、質問を受け付けてやる。解いてやる。今日は、君達にいい報告を持つて来た。まずは、これを見ろ」

私はアダムとイブに持つて来た横断幕を広げさせた。

その内容は…住込み三食付、週休完全一日制、勤務時間一日8h、家族同伴可、募集人数一万人…etcなど勤労条件を書いた物だ。

……

……

……

どうだ参ったか！

ちなみに、超ホワイト企業と言つても過言でない位の募集内容だ。まあ、命は張つてもらおうけどね。

「それでは、質問がある者は挙手したまえ。話せるようにしてやろう。

「ああ、名前など覚える気もないから名乗るなよ。質問だけ手短に言え」

すると、会場の全員が一斉に手を挙げた。お前等手を上げ過ぎだろう。そこの中から適当に人を選び質問させた。

「私は、ニコヨークタイ…」

パーン

女性が社名名乗ろうとしたので速攻で頭を吹き飛ばしてやった。あたりに血しぶきが広がるが、誰もしゃべれない為 悲鳴一つ聞こえない。

「同じ事を何度も言わせるなよ。次！」

今度は最前列に居た男に質問をさせた。

「これは、俗にいう従業員募集といつ認識で正しいのでしょうか？」

「そうだ」

「どうからどう見ても、そうとしか見えないはずだけど。

「待遇内容で色々と気になる点があるのですが、人数が一万人、給与がポイント制、そして戦術機の操作やその整備技術、または専門知識に優れた人材の場合は更に優遇とありますか 具体的にはどういったことでしょう」

「良い質問です。順番に答えましょう。

まず、募集人数が一万人ですが…これは、住居や食料の生産状況の関係上 受け入れられる上限数です。ちなみに、欠員が出た場合は隨時募集をします。

そして、給与のポイント制についてですが、貴方達でいうお金と思つてくれれば構いません。ただし、人同士での受け渡し等はできない物の為その人が死ねばポイントも消滅します。また、ポイントで買える商品については、あらゆる物を用意する予定です。例えば、天然物の食材、薬、家、酒、そして、先ほどから私の後ろで待機しているこの子等のその商品の一つだ

「初めまして、愛玩用BETA アダムです」

「初めまして、愛玩用BETA イブです」

「どうだ、かわいい子だろ?」

「そ、その子達もBETAなのですか!?」

まさに、驚愕の新事実だよね。

「ああ、基本スペックは人間と変わらん。

もちろん、夜の喰みも可能だ。

お前らが言う人権もBETAならば問題なからう?では、続けるぞ。

戦術機等の知識を持つものを優先するのは、敵と戦うために決まつているだろう。

ああ、そうそう、先ほど商品で言い忘れたけど…

あの子達以外の目玉商品として、

我々の技術を用いて若返りや寿命の延命なども用意してあるぞ」

若い者たちには、愛玩用BETAは最高の商品だらう。しかし、年老いた老人たちにとつては、使えない商品になるかもしけん。そこで考えたのが、若返りと延命だ。

「どうすれば、採用されるのでしょうか？」

「採用か… そんなにBETA側で働きたいのか。」

「採用方法は、実に簡単だ。最寄りのハイヴに行けばよい。既に、各ハイヴには精神感応タイプのBETAを多数配備しており、君達が心から私の元で働きたいと思つならば攻撃を受けることはない」

「攻撃を受けると言つたあたりから集まつた人間達から話が違うぞ!! みたいな顔をしている。もしかして、和平条約締結みたいな事で宣伝でもしていたのだろうか。」

「そ、最後に… その募集内容には業務内容が書かれていませんでした  
が。何をするのでしょうか?」

「人殺しだよ」

「一人といふ狭い枠にどのくらいの人人が集まるか楽しみだ。」

## ポイント一覧

ポイント表

戦闘時の基本報酬

項目	ポイント	注意事項
1   国家元首殺害	500	'000
2   凄乃皇級戦術機撃破	500	'000
3   母艦撃破	100	'000
4   潜水艦撃破	50	'000
5   第三世代戦術機撃破	50	'000
6   第二世代戦術機撃破	250	'000
7   第一世代戦術機撃破	1250	'000
8   陸戦兵器撃破（戦車、装甲車等）	1000	'000
9   輸送車撃破（補給車、揚陸艦等）	500	'000
10   戦闘員殺害（軍人）	510	'000
11   非戦闘員殺害	-	-

### 戦闘時の追加報酬

項目

ポイント | 注意事項

参加者全員	1   G弾に関する技術を入手	200	'000
	2   基地制圧時	10000	'000
	3   第三世代戦術機入手	10000	'000
	4   第二世代戦術機入手	5000	'000
	5   第一世代戦術機入手	5000	'000
	欠損具合により、減点	-	-
	欠損具合により、減点	-	-
	欠損具合により、減点	-	-
	6   BETAにとつて有益な新技術の開発又は情報を提供した場合	30000	'000

内容に応じて加点有

商品一覧	項目	ポイント_注意事項
年分	1   延命処置	500 000   20
2   若返り	00 , 000   指定した年齢に若返りさせます。	5
ません。	但し、寿命は延び	
3   愛玩用BETA カスタム仕様	250 000   貴方だけのBETAをご用意	
4   愛玩用BETA アダム	150 , 000	
o r 愛玩用BETA イブ	100 000	
5   戦術機改造	見ただけ	
変更可能。但し、性能劣化		
6   完全治療	100 000   病気や身体の欠損等を治します	
7   容姿改造	100 000   貴方が望む容姿へ変身させます。(T-S可)	
8   一軒家	100 , 000	
9   一週間のバカンス	10 000	
10   天然物の食材(海の幸、山の幸)     日分	100	
11   嗜好品(酒、煙草、お菓子)     日分	100	
12   趣のある品物	100	
夜の喰みに使う品々等		
13   その他(日用品、雑貨等)	10	
一品当たり、基本10ポイント。ただし、素材にこだわる場合は必要ポイント増加		

その他

基本給は、毎月50ポイントです。（勿論、技能に応じて差異があります）

住居は、大型の社宅に様な物を用意しております。

食料は基本的に、配給制です。

疑問等がありましたら、可能な限り応えて追記していく予定です。  
ちなみに…商品が高いと思う方もいるでしょうが…人類つてまだ  
10億人いるんですよ。

単純計算で50億ポイントは稼げるはず!!だから頑張りましょ  
う。

では、また本編で。

## 05話・トップエース達

私が世界に声明を出してから一ヶ月が経つた。

ここまでは概ね予想通りに事が運んだよ。すでに、BETA側に寝返った人類の数は7千人に達したのだ。やはり、自分の事が一番可愛いのであらう。素直でいい事だ。

「昨日の敵は、今日の友つてか…」

昔の人は良い言葉を残したな。まさに、その通りの状況が起つているのだからね。おまけに、BETA側に付いた人間の殆どが、戦術機や装甲車などを持参してきた。まあ、ハイヴに向かう以上、歩いて来られるはずも無く、当然の帰結と言つべきだらう。

君達は いつまで生き残れるかな？

君達の雇い主として、仕事ぶりを見に行こうじゃないか。

某前線基地にて。

既に基地は半壊状態であった。各所から火の手が上がつており、制圧まであと一歩と言つといろまで來ている。BETAの援護も無く、30機足らずの戦術機で前線基地を落とすとは、なかなかやるではないか。

ちなみに、BETAは基本的には争いに参加しない方向を取っている。なぜなら、我々まで協力したら、一方的なゲームになっちゃうからね。

「君達、良い腕をしているね。この短期間でどうやってここを落としたのだい？」

近くに居た戦術機に話かけた。乗っている機体が不知火の為、恐らくH-1ス級に近い衛士なのだろう。

「はっ!! 我々の中に、あの基地出身の者がおり、戦力やセンサーの範囲など内部情報があつた為、スマーズに事が運びました」

ふむふむ、流石だね。

「そうか、よくやつた。これで基地が落ちれば、君は20万ポイントか…我々の中でも断トツじゃないか。君は、一体何を望むのかな？」

それにしても、わずか一ヶ月で20万ポイントは正直凄いな。どれだけの数の人間をこの短期間で殺したのだ。そつまでして、君が欲しい物が私はとても気になるよ。

「…娘を。故郷でBETAに殺された娘を取り戻したい」

娘か…と言つ事は、こいつの望みはアレを希望するといつ事か。それでも、娘を殺した親玉に呪くさねばならない、この衛士の気持ちはさぞ複雑だらう。

だが、そんな些細な感情ビリでもいいがな!!

「わかつてゐると思つが、死者蘇生は不可能だ。お前の記憶をカスタムタイプに転写する事で疑似的に再現は出来るが、それはBETAであつてお前の娘じゃない」

「わかっています。だけど、それでも…それでも」

「愛玩用BETAをそういう風に運用するとは、少々予想外だな。まあ、私は出来る上司だから、少しだけ手助けをしてあげよう。部下が助けを求めているんだ、それを手助けして導くのが上司の仕事でしょ」…常識的に考えて。

「…」  
「…」より、南南西に50km程言つた場所に難民キャンプがある。数にして1万人居るだろう

戦術機は、南南西に猛スピードで移動を開始していった。頑張つてくれ。

あれから更に一か月が経過した。

計画は上々だ。今、我がBETA側についた人間は定員の1万人に達したのだ。それにしても人間どもは良く働くね。人間側を裏切つた以上、後戻りはできないという事もあり やる気に拍車がかかっているのだろうけどね。

「報告を」

「は!! 先日、ソ連にある前線基地を制圧。

これで我が軍が制圧した基地の数は八つ目になります。

ただ、流石に我が軍の被害も甚大でした。

戦術機を含め総戦力の2割を失いました」

流石は、ソ連…前世で恐ロシアと呼ばれた強国だけの事はあるね。我が軍の2割を道連れにするとはね。

「それで？」

「人員に欠員が出た為、人類側に通知したところ  
募集人数の三倍の人数が来た為、先着順で雇い入れました」

人間の替えなど幾らでも居る。どんどん殺し合いたまえ。

「続ける」

「は！ 定員割れ人間については、その場に居合わせた小隊で全て駆逐致しました。ただ、基地制圧時に死亡した者の家族についていかがいたしましょう？」

「どこにでも効率よくポイント稼ぎを奴は居るんだな。じゃんじゃんやつてくれ。後は、死亡者者の家族についてか… そんなものは、決まっている。」

「労働の意欲がある者は、職につける。職に就けない者、就かない者は全て殺せ」

「子供や赤子は以下が致しましょう」

「好きにしろ。養うのもよし、ポイント還元するのもよし。ただし、働く意思があるなら職につけろ」

ちなみに、我がBETAでの職とは基本的に軍役に事だ。食料の生産から建築に至るまで基本BETAが行っている為 生産業に人を回す必要はない。もつとも、研究職や専門職など特化した技能を持つ者は 別待遇だがね。

「了解致しました」

そういうと、人間は退出していった。

さて、後は労働者が希望している愛玩用BETA力スタムタイプを作るとしよう。一般仕様と異なり、全て私の手作りだ。なんせ、注文が細かいのが多かったからね。

愛玩用BETAの仕様書に目を通した。全部で5件あるのだが…  
そのうち2体が他の仕様と比べて異質を放つている。

「やはりと書つべからずか…まさか、同郷の者がいようとはね」

この世界の人間が…狼耳を持った美女タイプ…しかも、賢狼とアレとクリソツな者を考えられるはずもない。そして、もう一体は…脱げば脱ぐほど早くなる事で有名は某魔法少女とはね。しかも、声まで希望しているよ。

恐らく、原作知識はあるが特殊能力がない類の人物だろう。だが、戦術機適正は すば抜けて高いがね。我が軍でカスタムタイプの B E T A を持てる程の人物は 両手で足りるくらいだからね。

「良い機会だし、会つてみようかな」

我が軍のエースにね。

## 06話・限界突破

「転生者らしき」一名を呼び出した。実際会つてみて分かった：こいつら絶対転生者だと…。なぜなら、こいつらの容姿がその事実を物語っている。

「一応、自己紹介しておこう。レイア・ライシス・ド・ヴェーグルだ」

「私は、元イスラエル軍所属グラハム・エーカーだ」

「俺は、元イスラエル軍所属刹那・F・セイエイだ」

言つまでもないと思うが、名前通りの容姿をしている。三者がお互いの顔を見合せている。全員言いたいことはあるようだが…色々と考えているようだ。

「全員、初対面であつているかな？」

二人が頷いた。

「俺が!!　俺達が!!」

「ガンダムだ!!」

ノリノリで刹那が答えてくれた。これで間違いないな。

「逢いたかつたぞ!!」

「ガンダム!!」

同じくノリノリでグラハムが答えてくれた。

「やはり、同郷の者が…TVを見たときは、まさかと思ったがな。ならば、何故お前はエヴァに乗っていない!! 二号機もしくは六号機にのつてこるべきだろ!!」

「言つてくれるじゃないかこのガンダム野郎め。私だって乗れることなら乗りたいが…あんなの作れるわけがないだろ!!」

「エヴァに乗つていなイカヲル君など…ただのゲイではないか」

「た、確かに…やばい、言い返せない。」

上司に対しての礼儀がなつておらんではないか。本来ならば、あの世に送るべきなのだが…同郷のよしみで許してあげよう。

「ゴホン

「まあ、冗談はさておき…一人は、どんな経緯でこの世界に?」

マブラブは、ゲームとしては非常に面白かった。しかし、転生する世界としては正直最低ランクに近いだろ!! なんせ、敵がほぼ無限に居る上に、人類の寿命が残り10年程度…白銀武が『あ号標的』を撃破しても人類の寿命が30年程度に伸びるだけで、正直生きるのに辛い世界だ。

「俺は…〇〇のDVDをレンタルした帰りにトラックで…。その後にセオリー通り神様に会つて、願い事を聞かれたから『ガンダムに乗りたい』と言つたら、この世界に生まれ落ちた」

「それで、肝心のガンダムは?」

.....

.....

.....

「生まれた時の家に… G A N D A M と書かれたダンボールが… ぐす  
ん」

ひ、 酷い。 酷過される。

思わず私までもらい泣きをしてしまった。

「わかるわ 少年！ 私もトラックに轢かれて… 神に『スサノオ』が欲しいと言つてこの世界に来たのだが… 5歳の誕生日プレゼントが何故かスサノオのプラモデルだったのだ。」

不憫だ… なんて不憫なのだ。

「二人とも不憫な思いをしていたのだな。 まあ、その容姿と戦術機特性が高かつただけ良かつたじゃないか」

「それで、貴殿はどうしてここに？」

貴殿… いい響きだ。 是非、 今後もそう呼んでくれグラハムさんよ。

「ああ、私は… 私の場合は、神様が直接別世界に行ってくれないかと言わせてね。最も、この世界の生まれでは無く、『ゼロ魔』の世界出身だけね」

「なんと!! 虚無の扱い手か!?」

「不公平だ!! 不公平過ぎる!!」

まあ、そつだよね。君達を見ていたら私って本当に恵まれている気がしてきたよ。

「いいや、土のスクエアだ。後、容姿から分かるように当然、こんなにとも出来る!!」

私は、一人の前にA・Tフィールドを展開した。すべての手の内を見せない為に、ゼルエルやラミールの事は内緒にしておくつもりだ。

「なるほど…予想通りだ。それで、一体どうこいつ経由で『あ号標的』なんてやっているのだ?」

私は、この世界には『世界扉』の事故で来てしまった事や世界状況を見て善意で人類を助ける為にオリジナルハイヴに飛び込んだ事などを説明した。そして…最後に白銀武に荷電粒子砲+G弾で殺されかけ、生き延びる為に『あ号標的』を食らった事を説明した。

……

その後もしばらく、話し合い音話に花を咲かせた。思いのほか、前世での年齢層が近かつたらしく話が合つて楽しかった。

数十分後。

「最後に、確認しておきたいのだが…なぜ、人類を裏切つてまでこいつら側に?」

「人類側に居る限り、俺がガンダムに乗れる事はないだろう。ならば、可能性がある方に着くのが当然だ。そして、獣耳は最高だ!! 俺は、その為ならばなんだつて出来る!!」

ああ…件の獣耳BETAは刹那君が申請者だつたね。

「私も左に同じく。

人類側に居ては、スサノオなど夢のまた夢。

そして…YESロリータNOタッチを信条としているこの私に  
とつて…ここは天国だ。

BETAならば人間でないし適応範囲外だからな

肉体構造的に人類とほぼ同じだけど…その場も適応されるのか?  
まあ、頑張つて働いてくればそれでいいよ。

「君達の心意気はよくわかった。これからも頑張つてくれ。

後…追加報酬というわけでは無いが、君達が希望するなら戦術機の  
見た目をガンダムやスサノオに変えようか?

「便利な鍊金を使い、形を変える程度はたやすいさ。

「お願いしよう」

「俺も」

了解した二人とも。

「あ…そうそう、君達が希望していた愛玩用BETAだが完成したの  
で君たちの宿舎に届け……って、いないし!!」

私が言い終わるより早く、一人は部屋を退場していった。

一瞬だが、私の知覚速度を超えたぞ…エロは人間の限界をこえるの

か  
:

## 07話・新兵器

ふむ…自分で言つのも何なのだが…『鍊金』ってチートだな。多分、出来るとは思つていたが、まさかこうも思い通りにいくとはね…現在、例の一人の為に戦術機の見た目を『鍊金』でスサノオとガンダムエクシアへと変貌させた。

スサノオについては、グラハムがプラモを持ってくれたから細部まで再現できたのだが、エクシアについては正直記憶があいまいな部分が多いので微妙にオリジナルになつていてる。

それにしても、形を変えたのはいいがさ。これって、うちの整備班が整備可能なのか…。後、不安なのが性能面だ。まあ、今回の変形で多少性能が落ちたところで、あいつ等は死ぬようなタマジやないだろ？

「会いたかった…、会いたかったぞ、ガンダム!!」

「いや…アンタはスサノオでしょう。なに浮氣してんの。無駄に名台詞使わないでもいいよ」

そんなにガンダムが好きなら、今からでも見た目をガンダムに変えてやるぞ。

「ガンダムだ…俺がガンダムだ!!」

「ああ、そうだね。君の!! ガンダムだね」

言葉は正しく使おうぜ刹那君。君のガンダムだから。そんなにガンダムになりたいなら、機体と直接繋がり操縦する技術でも開発依頼

をだしてみるかい？ もつとも、それを実現するためには暫は人間をやめる事になりそなうだがね。

「氣にこいつでもらえたようだな。分かってこむじが… 中身は君達が元々乗っていた第三世代となんら変わりはない。むしろ、形を変えたことで色々と無茶をしているから しつかりとテストしてくれよ」

「無論だ」

「ああ」

「後は、問題があればBETA軍の整備班と一緒に改修していけばよいね。」

「あ… そりそり、一いつ言こと忘れた」とがあった。機体の改造に当たり君達が持っていたポイントからー〇万ポイントを引いておいたから

「な、なんだと!! それでは、猫耳タイプが買えないじゃないか!!」

そんな血走った目でひいぢを見なごしてくれよ 刹那君。

「待て!! ポイントがかかるなんて聞いてない。今ポイントが減つてしまつと週末に『お姉ちゃんを買つてきてやる』と言つ約束が守れないとではないか!?」

いや、そんな」と言われてもグリハムさんよ。それに、あなたさ… 愛玩用BETAに姉をかつてぐるつて… 一体どんなプレイする気だよ。

「まあまあ、落ち着け。確かにポイントについて云えてなかつたのは私の責任だ。だから、君たちの為にこいつらで追加装備を用意してあげ

た。それで、我慢してくれ。なーに、君達ならば絶対に氣に入るはずだ」

私は、用意した新装備を一人に見せてあげた。二人ともそれを見た瞬間、目が輝いていた。そりやそうだろう、この世界じゃ実現不可能に近い代物だからね。

「これは…光線級BETAか？ 何故か、銃みたいデザインをしているが…」

「は!! そういう事か!!」

そういう事ですよ 刹那君。

そう、これこそ我が軍の次世代兵器『光線級BETA銃タイプ』なのだ。俗にいうビームライフルだ。エネルギー補充がハイヴでしか出来ないという欠点はあるが、それを補つてあまる程の代物だ。当然、『重光線級BETA銃タイプ』も用意した。俗にいう、大型ビームライフルと言つて過言ではないだろう。

「これがあれば、すぐに点数など取り戻せるだろう。これからも、期待しているよ」

あまり手を貸す気はなかったが、見た目をガンダムとかにしてしまった以上、どうしても作りたくなってね。少しだけ手を貸しちゃつたよ。人間達の驚く顔を見に、私も次の戦争に顔を出してみるかな。

数日後。

現在、基地攻略作戦を見学しに来ております。この間、二人に渡し

たビームライフルの性能をこの目で見る為にね。開戦して僅かに時間で基地を制圧か…

「ふつふつふ、圧倒的ではないか我が軍は…」

どの基地にも対BETA戦用に作られて物が殆どで、対人相手の基地などこのご時世 ほとんど存在しない。

「二人とも使い勝手はどうだい？」

まあ、本日の獲得ポイントを見る限り問題なさそつだがね。

「やはり、性能面での劣化は否めぬ。

だが、このグラハム・エーカーに不可能はない!!」

「機体のバランスが悪いな。

基地に戻り次第、調整する」

そうやつて、じんどん改修していくください。だけど、私が聞きたいのは武器の使い心地なのね。

「で、新兵器の方はどうだった？グラハム」

「先制攻撃用としては使えるだろう。

だが、対人戦ではインターバルの長い兵器は使い物にはならん」

最初の一 手しか使えぬか…改造が必要か。多少サイズはデカくないが、リボルバー式にしてインターバルの問題点を解決させた方がいいか。

「刹那の方は？」

「右に同じ。

もつとも、近接戦闘が主体なので、ゲーム兵器は使い勝手が悪い  
そうか…でも、いれぱかりはどうも無い。頑張れとしかいい  
ようがないね。

「それで、君達はもうポイント稼ぎはいいのかい？」

私が感じ取った限りでも、まだ基地内部には軍人が籠城しているの  
が分かる。当然、我が軍でもそのポイントを取得する為に皆が精を出  
している。なんせ、戦術機に乗れない人にとつて基地の残党狩りは、  
よいポイント稼ぎになるからね。

家族の為に頑張る男達って素敵だよね。

「ふ、私達は既に十二分に稼がせてもらつた。

あまり、皆のポイントを奪つては悪いだろ？

優しいね グラハムさん。やはり、出来る男は違うといつ事かな。  
これで、ロリコンでなければ ややかしモテモテだった だろ？」  
…。

「ノルマは達成した

ノルマね…もはや、作業になつてきたか。もう少し歯くちばいたえのある  
基地を攻めさせねば駄目だな。

「お…基地の生存者が0になつたね。では、かえ 大変です。レイア様  
!!」

帰らうと思つたらCIAから連絡が来た。一体何を焦つていいのだ。

「たつた今、米国から核ミサイルが発射されました。  
到着まで5分です。ただちに撤退してください」

……

……

人間相手に核まで持ち出してくるとはね……えげつない。では、早々に撤収するよ。

「各員聞こえたと思うが、間もなくここに核ミサイルが着弾する。  
全員ただちに撤収せよ。メガワームはこれより三分後に出発する。  
遅れた者は置いていく」

「2分では、そつ遠くまで離れられないぞ。大丈夫なのか？」

まあ、本来なら無理だらうね。だから、今回だけは私が少しだけ力を貸してあげるよ。

「今回だけサービスだ。メガワームを  
私のA・Tフィールドで守ろう。核ミサイル程度では突き破れん  
よ」

「なるほど、私達は先に避難させてもらおう」

そう言い残し、グラハムと刹那がメガワームに避難していった。

それにしても、なぜ今回に限つて核を使つてきたのだ。今までだつて使う機会はあつたはずなのに……まあ、考えたところで無駄だな。

「さて、何名欠員がでるかな

## 08話・BETA軍衛士

Side とある衛士

オリジナルハイヴを潰してから、全てが変わってしまった。もちろん、悪い意味でだ！人類が総力を挙げて、オリジナルハイヴ…いや、『あ号標的』を潰したまでは良かった。

俺もその報告を聞いたときは、正直感動のあまり涙が出てきた。人類の記念日と言つてもいいだろう。

しかし、事件が起こったのはそれから桜花作戦より半月後の事だ。全世界に向けて重大な発表があると政府から通達があり、我々軍人も食堂やミーティングルームなどTVのある部屋に集まつた。

そして、そのニュースを見た時はもう訳が分からなかつた。ニュースキャスターの頭がいきなり吹き飛んだり、全員がレイアと名乗る少年の命令に通りに黙つていたり、あまつさえ『愛玩用BETA』なんて物まで紹介していやがる。正直、悪い夢でも見ていい気分だった。

その日から世界は一変した。

戦争派と和平派で日々争つているのだ。俺だつて、馬鹿じやないから今回の一件がどれだけ重要なのかは理解できる。なんせ、人間と対話が可能で人間を言う存在なのだ。

『BETA軍総務部のイヴです。

BETA軍より本日のニュースをお知らせいたします。

先日、我が軍によつて行われたポーランド前線基地攻略作戦におき

まして米国の核兵器による攻撃で死傷者95人を出しました。

その為、BETA軍の95名分の人員を募集致します。

人数に限りお早めにお近くのハイヴへお越しください。

我々、BETA軍は貴方達の応募を心よりお待ちしております』

今日もBETA軍からニュースが流れてきた。

また一つ、前線基地が潰されたようだ。それも、人間の手によつて…。正直、BETAに殺されるよりたちが悪い。白旗を振つてもBETA軍の連中は、問答無用で皆殺しにしてくるそうだ。BETAのように対話が望めない相手ならまだしも、同じ人間だぞ！

ウイ-----ーン

基地内部に非常警報が発令された。

BETA軍がポイント一覧表を発表してからといつもの 人員募集があるとすぐにコレだ。

『現在、戦術機2機が我が基地より逃亡した。

現時点をもつて逃亡者をBETA軍と認定する。

アルファー小隊は、直ちに出撃し撃墜せよ。

なお、目標は我が軍の情報を持ち出している疑いがある。

ハイヴにたどり着く前に必ず撃墜せよ』

どうやら、うちの小隊の出番の様だな。

ハイヴ前にて。

「悪く思うなよ。いつまでも仕事なんだね」

うちの小隊は、ハイヴに逃げ込むギリギリで目標を撃破する事ができた。本当に馬鹿な連中だ。追手を振り切って逃げるところのは、通常難しいのだよ。

そのおかげで我々は苦も無くハイヴまでたどり着けたけどね。

「さて、諸君!! 我々は当初の予定通りBETA軍に鞍替えする!! これからは、酒に女、うまい飯! なんでも好きなだけ食えるぞ」

「「「おおおおおおお!!」」」

それにしても、いつも上手くいくとはね。基地でも不穏な空気が流れている為、誰かが行動するとは思っていた。我々は、それに便乗して逃げればよいだけだ。逃げた一人も殺さずとも好かったのだが、あいにくと人数制限があるのでね。悪く思わないでくれよ。

「諸君。

私はBETA軍所属グラハム・エーカーだ。ようこそBETA軍へ

見慣れぬ期待がお出迎えにきた。恐らく、BETA軍のHースなのであるわ。

「よろしく頼む。

私は、元イギリス軍所属アベル・ジェイラスといつ

「君等は運がいい。君たち全員でちょうど募集人数一杯だ」

私達はそれを聞き、全員が武器をロックした。

危うく、仲間同士でまた殺し合をする所だつたぜ。

S i d e   e n d

数日後。

人材も集まりだし、我がB E T A軍も実に充実してきた。なにより、資源が豊富の為 弹薬等は使いたい放題なのがいいね。B E T Aを使って潰した基地から使えそうなものは全て運び出しているからね。

そして、何よりみんなのやる気が凄まじい。モチベーションが半端ないよ。よっぽど、うまい飯や酒に飢えていたのだろう。おまけに、我がB B E T A軍では防衛線に限りB E T Aが担当するから侵攻作戦以外で死ぬ事も無い。

そのせいで死亡率は 人類がB E T Aと鬪う事に比べて少ないし ね。更に、仮に侵攻作戦で敵側に捕まつたとしてB E T Aと違い相手は人間だ。捕虜として扱われる可能性が高い… 貴重な情報源としてね。

さて…次は何処の基地を攻め落とすかな…

基地の名前を書いたルーレットを回した。そして、ダーツを投げ次回攻め落とす基地を選択する。どこを攻め落としても構わないのでいつも適当に決めている。まあ、アメリカや横浜は省いているけどね。なんせ、近くにハイヴがないから駐在基地を用意できないからね。

アメリカはともかく横浜には少なからず縁があるからね。是非、ごあいさつに向かわないと困りからさ。

「やべ… 思い立つたら吉田といつし、横浜の魔女さんに」「挨拶に行く  
としよう。ついでに、今申請されてる愛玩用BETAの靈モテルを  
作る為に現物を確認したいしね」

なんせ…マブラヴをやつたのなんて数十年前だ…一人一人の顔なんて正直殆ど覚えてないからね。せめて、申請者も顔写真位は持つてこようぜ。

私は備え付けの通信機を手に取つた。

『あ、刹那。これから横浜に行くけど何か伝えてきて欲しい事はあるかい?』

『俺は、原作キャラと面識がないから特にない。それに、興味は無い』

ふむ、  
糸那は原作との接点はないのか……まあ、  
良い。

では、グラハムにも聞いてみるかな。

『グラハムかい?』

『あ、パパ？ パパは今お姉ちゃんと…』

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

おい いい いい いい !!  
電話位自分で取れよ !!

「どうか、パパ!? お前どんなプレイしているんだよ。それに、真昼間からナニやっているんだよ。たしかに、今日は休日だから文句は

言わないよ。本当に、こんなのが我が軍のヒースでいいのか…。

『ゴホン。失礼した。何か急用ですかレイア殿?』

『…色々突っ込みを入れたいけど、もうこりよ。えっとね、これから横浜に遊びに行くけど何か伝言あるかい?』

『横浜か…以前に米国から視察と名田で一時滞在していたな。その折に、とある女性から告白された事がある。すまないが…その女性に「私は、こちらで宜しくやっている。君も早く良い人を見けるよう」と伝言を頼まれてくれ』

…鬼畜だ。

告白の結果を 代理人を通して言つた。しかも、お断りの返事だよ。

まあ、私も言つた手前引き受けのナビを。

『まさか、そんな伝言を引受けた事になるとは思つてもみなかつたよ。それで、相手はだれ? とこいつが…まだ生きている?』

『その点については問題ない。なんせ、相手はA-01部隊の涼宮茜だからな…紳士としてちゃんと返事をせねばならんと思つていたのだ。生憎と返事をする前に、米国に急に呼び戻されてな。悪いが、よろしく頼む』

だったら、紳士らしく自分で返事をしに行かせよつかな…。

『了解だ。では、一句たりとも間違えずに伝えてくれるよ』

さてさて、では身だしなみを整えて出発するといつも。

## 09話・放送事故

横浜つて、本当に何もないのだな。昔は、中華街とかあつて賑わっていたのに残念な事だ。だけど、お蔭で横浜基地はすごく見つけやすかつたよ。だつて… 荒れ地の中にポツンと馬鹿でかい基地があるのだからね。

まずは、門番兵に「挨拶」と行こうぢゃありませんか？

「ハロー、人類の皆さん。

暇だつたから遊びに來たよー」

門番兵にしてみたら、「冗談じゃないと言いたい位の緊急事態だらうね。速攻で警報が鳴らされて、以前に世界中の偉いさんに挨拶した時と同様に…いや、それ以上の兵隊が集まっているな。

流石は、極東の最大の防衛拠点。おまけに、武御雷まで「」登場とはね… 国連だけではなく、日本…いや、ここでは帝国軍まで来てくれるとは大層な歓迎じゃないか。

『動かないでもらおつ。

大人しく捕まるのならば命の保証はしょつ… 抵抗するよつなら力ずくで捕まえさせてもらおつ』

私の前に立ちふさがり、ウダウダと… 本氣で私が捕まえられると思つてゐるのか。もし、それが可能ならば ワイトハウス前で私は既に捕まっているよ。

「邪魔」

ドーナン

『あさみ!!』

A・Tフィールドを上空に展開し、立ちはだかっていた戦術機をブレスした。少々、力加減を間違つて、地面に大穴を開けてしまったよ。問題あるまい。

「私の前に立つて邪魔するからだよ。後、攻撃してこなければ何もないから安心したまえ。早速だが、これから言う人物 早急に呼び出してもおつ」

横浜基地の香月先生の部屋。

私の目の前には、香月先生と霞がテーブルを挟んで向かい側に座っているのだ。涼宮の方は、現在作戦行動中らしく、この基地に居ないそうだ。だから、『呼べ』と一言命令しておいた。

「おや、気に入りませんでしたか。

貴方がコーヒー やお酒が好きだと聞いて厳選して選んできたのですが

折角、BETA軍の中から1級品を選んできたといつに何が気に食わないのだ。コーヒーは、ブルーマウンテン。お酒の方はロマネ・コンティの三十年物だぞ。この時代じゃ、一生口に出来ないよつた嗜好品だ。

「いいえ、頂いておくわ。

…それで、今や世界に名を轟かす大スター様が私に一体何の用で

?

「そんな敵意をむき出しにしないで欲しいですね。

これでも、少なからず貴方達とは縁があるんですねだけね」

霞の耳がピコンピコンと動いている。何が何でも私の腹の内を探りたいようだな。

「そう、貴方みたいな個性的な人と会つたのならば忘れないと思つけど…何処であつたのかしらね」

個性的ね…誰のせいでこんな人間離れした体になつたと思つてやがる。それに、横浜の魔女とも呼ばれる程の人物が、凄乃皇四型が持ち帰つた記録を解析してないはずがない。

「しらをりますか…映像で見たのでは ありませんか？ 私が、凄乃皇四型が放つ荷電粒子砲を防ぎ G弾に飲み込まれる姿をね」

「つ！ やはり、見間違いで無かつたようね。

最初の映像を見た時はまさかとは思つていたけど…貴方、一体何者？」

「あなた方の敵：BETAの親玉である『あ号標的』ですよ

これが、今の私だ。

「ふう、秘密と言つ事ね。まあいいわ、それで一体 ここに何をしききたの？ 悪いけど、あんたが欲しがるような物はここには無いわよ。それに…長居されると、ここにも核が撃ち込まれそだから早々に出て行ってくれないかしら」

こちらの情報を集めるのを諦めたのか、邪魔者扱いされる。酷いな、せつかく会いに来たのに。

はいはい、帰りますとも……用事を済ませたらね。

「《動くな》」

私は靈の頭に手を置いて、身体情報を読み取つた。これで、靈型B E.T.Aは問題ないと。後は、もつすぐ来る涼宮に伝言を伝えて帰るよ。

数分後。

「涼宮茜　ただ今 参りました」

「ほら、来たわよ。さつむと用件済ませて帰りなさい」

すぐに終わらせますよ。

「我がB E.T.A軍のハムの人から君宛てへ伝言だ。しつかりと聞け」

「え、ハ　ハムの人？」

そうだよ。ハムの人と言えば一人しかいないだろ？

……

……

え!? 知らないの?

うーーん、もしかしてグラハムに騙されたのかな?まあ、とりあえず伝言だけは伝えておくか。

『私は、こちらで宜しくやつている。君も早く良い人を見けるように』だそうだ。男運が無かつたと思つて諦めるんだな』

部屋を出た時に鳴き声が聞こえたような気がするが…気のせいであろう。さて、そこをじつてもりおつか…国連軍諸君。私は、それだけ伝えて基地を去つた。

後日。

横浜も存外つまらなかつた。

そして、愛玩用BETA霞タイプを納品し終えた。働くみんなの要望を叶えるのは上司の務めだと思って頑張ったよ。きっと、注文した人も色々な意味でやる気が出たに違いないと信じておこう。

そして、私は私室に備え付けたTVを見ている。

『の中は、TVの音声です。

BETA軍の人達が暮らす街の公園にて。

『人類の皆さん。見えるでしょうか？ あれが、BETA軍の人達が暮らす人たちの街のようです。戦時中とは思えない程 平和です』

アメリカのTV局から是非 撮影させてくれとの依頼が来ていたので暇つぶしに許可したのだ。下手に編集されないように生放送を条件にしたけどね。

我が軍の素晴らしい人が人類に知れ渡れば、更に楽しい事になるだろう。入居者殺到で更にえげつない争いを繰り広げてくれるここと間違いないしなじだ。

『どうせ、今日は休日と言つ事もあり 街の公園には親子連れの人達が沢山いらっしゃいますね』

実際にぼのぼのとした映像が放送されている。子供と遊ぶ親子、公園に隣接したカフェで食事を楽しむ親子。どれこれも、外の人間にとつては驚愕だらう。

『あ、そこの双子を連れている親子の人があります。是非、質問してみたいと思います!! すみませんが、少しお時間よろしくでしょうか?』

『私が? 何用かね?』

公園で遊んでいるある親子らしき人物にインタビューを持ちかけている。

……

……

『おい!! なんで、お前がそこに居るんだよ!! 暫間つからニヤンニヤンするのが日課だつただらう。

『あ 貴方は、もしかしてグラハム・ヒーカーさんではありませんか? お子さんまでいらっしゃったとは知りませんでした』

『ふ、男である以上 娘の一人や二人いなくてどうどうする?』

『私をそちらへんに居る者達と一緒にしないでいただき』

『パパ、早く遊ぼう』

『そうだよ パパ。早くおうちに帰つてキレイキレイして』

そりゃ、一緒にしたら周りの人に失礼だろ。

明らかに、お前の子じゃねーだろ。生放送なのに、キレイキレイとかやめろおおおおおお!!

『そ、そうですか。失礼いたしました』

キヤスターの人も一瞬困ったようだが、流石はプロ。一瞬で立て直した。差しさわりの無い質問をしてその場を濁してくれた。その後は、街の食糧生産工場などを映像が流れた。映る皆は、誰しもが幸せそうな顔をしていた。

インタビューに答える全員が『BETA軍に来て 生活がよくなつた』と口を揃えて言うのだから、見ていて楽しかったよ。

BETA軍の人達が暮らす街のペットとの触れ合い広場にて。

この時代でペットを飼うなど余裕のある家は殆ど居ないだろうが…。BETA軍では疲れを癒す為にペットを飼う事を推奨している。当然、ペットのかかる食費は無料としている為、多くの人が動物を飼っている。

『見てください。』の動物たちを!!

BETA軍では、子供の情操教育の為にペットの飼育を推奨しているようです。

とっても可愛らしいですね』

見たか我が軍の力!! ペットの もふもふ攻撃は最強だ。

『あそこに座っている男の子にさよつと質問してみますね。

すみません、少し質問よろしいですか?』

『なんだ?..』

公園のベンチに座り、ペットと様子を眺める 褐色肌の少年にインタビューを始めた。

『貴方は、一体何の動物を飼っているのですか?』

『狼と狐だ』

……  
……  
……

お、お前もか!!

待て待て待て!! お前のは、ペットじゃなこだらう? セツキのグラハムは、さりげにセーフ? だけどお前のは、完全にアウトオオオオ!!

『狼にキツネですか!? 既に絶滅したと言られて、図鑑でしか狼もキツネを見た事が無いんです。是非 視聴者の皆さんにも この機会に生で『』覗いていただきましょ!』

やめろおおおおおお!!

『わかった』

刹那が、自分のペット?を呼び寄せた。しかし、TVに映つてているのは、賢狼にクリソツな美女と狐耳をしたサーバントにクリソツな美

女がキワドイメイド服を着て登場した。

『わっちを呼んだかや?』『主人様』

『なんですか~ご主人様』

外でご主人様とか呼ばせるなよ!! というか、これ全世界生放送だぞ!? 恐怖のB E T A軍のイメージが台無しだらう。

もう、見るに堪えかねてTVの電源を切った。

今度からTV来るときは、あいつら隔離しておこう。

## 10話・中東アジア制圧

鉄原ハイヴ間引き作戦の見学に来ております。

「ほほう、試に作つては見たものの…存外使えそうだな」

人類側の大規模な間引き作戦だ。間引き作戦とは、ハイヴ周辺域に存在するBETAの個体数が増加し、一定域内での飽和量に達するとその外縁部にいるBETAが押し出される形で開始される。この大規模侵攻を事前に阻止するため作戦の事である。

もつとも、今回の飽和状態になつたのは新型BETAのせいなのだ  
けどね。三体の新型BETAと改良型重光線級BETAのお披露目  
会だ。

一体目の『』紹介だ。

名前：拠点防衛用超弩級BETAシャムシェル

全長：500m

備考・攻撃力方法が左右の触手と体当たりのみ非常に少ない。ちなみに、触手の先からは溶解液ができる作りになつていて。

空は飛べません。要塞級みたいに地面を這いずつて移動

その他・これを見た衛士は、『でかい、ンコが迫つてくる！』と女性CPに報告した為、猥褻罪で軍事裁判にかけられる事ことになつた。

言つまでもなく、エ・アンゲリオンに出てくる使徒のモチーフにした新型だ。光る鞭の武装は用意できなかつたので、代わりに旧『あ号標的』が装備していた触手を取り付けた。当然、先端部は男のアレに似せておいたよ。装甲には、モース強度15以上あると言われる要塞

級のかぎ爪状の衝角と同じものを使つてゐる。なんせ、500mもあると誰が打つても外しようがない位の的だからね。無駄に頑丈にしておかないと再建費用が…。

### 二体目の紹介だ。

名前：人型腹マイトBETAマターニティ

全長：1.5m

備考・回収した人類側の死体を元にBETA軍が利用している爆薬を腹に詰め込んだ新型だ。

爆発の威力は、手榴弾一発程度の為、戦術機や装甲車などには効果は期待できない。近年は流行りのリサイクル精神に乗つ取つたエコBETAである。なんせ、人類側の死体など毎日大量に量産されるからね。人類側の基地から押収した火薬を無駄なく仕えて便利極まる。開けた平原などでも戦闘では、活躍の場は少ないが、市街地などの隠れる場所が多い所で真価を發揮するだろう。

### 三体目の紹介だ。

名前：昆虫型BETAイナゴー

全長：3~10cm

備考：人間子供が素手で倒すことが可能なBETAである。但し、数万という大軍で

行動を行う為、いくら弱いと言つてもその中の飛び込むのは無謀と言えるだろう。

腹が減つては戦ができる！という諺がありますよね。人間が備蓄している穀物などの食料を食い荒らす事を目的に作り上げたBETAである。小型である為、非常に排除しにくい。なぜ、食糧に限定したかというと、ちゃんととした理由がある。人間生きる為には食わないといけない…つまり、食い扶持を減らしてしまつてはイナゴーの効果が半減してしまうのだ。その為、あえて人間は殺さないように

作ってある。

「それにしても、圧倒的物量の前には人類とはいえるこの程度か…つまりん」

眼下では、シャムシェルに戦艦の支援砲撃と戦術機の過剰なまでの攻撃が集中している。しかし、シャムシェルの強固な装甲の前に前線は既に崩壊気味だ。

そして、歩兵たちも前線が崩れたせいでマタニティの餉食になっている。抱き着かれたら最後、そのまま自爆されてあの世に行きた。

『人類側の食糧保存庫の場所は分かったか?』

『はい、どうやら海上にある戦艦を物資の保管庫として利用しているようですが』

まあ、海に面しているハイ、ならそうするか…。私は、イナゴーに向けて海上にある戦艦を襲う様に命令した。正直、襲われた戦艦はたまたものではないだろう…ただでさえキモイBETAが小型であるとはいえ数万という数で襲つて来るのだ。まさに、地獄絵図だろう。

さてさて、改良型重光線級BETAを最後にご紹介しましょ。

人類側つて光線級の攻撃を回避するプログラムを組んでいるでしょう?あれつて、元々BETAが味方を撃たない事を想定に作られているのですよ。つまりだ! 味方ごと打ち殺せば人類側は回避できないと言つ事になるのですよ。

「改良型重光線級BETA・TAMAの性能を見せてもらおう。極東の一のスナイパーと呼ばれた実力を存分に発揮してくれたまえ

旧『あ郷標的』のデータを元に再生した「珠瀬 壬姫」の頭脳を搭載しているのだ。当然、自我などと言つた余計な物は排除済みだ。戦場は、新型BETAの登場により瞬く間に人類軍の数が減つていく。圧倒的射程から司令官クラスの戦術機を確実に撃破していくTAM Aは、極東一の狙击士と名高い事はあった。

恐らく、後一時間もすれば壊滅するだろう。

グラハムと刹那の方も上手くやつているだろうか…敵の主力がこちらに居る間に中国を叩くというのが今回の作戦だ。この作戦がうまくいけば、残る強国はソ連、EU、アメリカあたりか…日本はぶつちやけ、資源不足の為大した脅威でもない。

Side刹那

上空5000mの戦術機航空輸送用BETAサンダーバードにて。

まるで全身が縄で縛られ身が締め付けられる程の緊張感だ。

『お互い初めての降下作戦だな 刹那

『ああ、今まででは光線級の存在の為 降下作戦など自殺行為だったからな』

間引く作戦の隙を狙い、中国の首都を落とせとは無理難題を言ってくれる。いくら、主力部隊が居なくとも 常駐部隊だけでもこいつの倍はいるだろ?に…。

『地上班からの連絡では、レーダー基地の制圧と対空迎撃可能な兵器は全て破壊したそうだ。もっとも、こちらの被害も甚大だそうだ…』

『後はエース部隊の出番と言つわけか…。それにしても、ここまで戦術機がぱらぱらの部隊も珍しいな』

グラハムや俺もそうだが…ほかの連中もチラホラと見た事あるような機体に乗っている。スーパーロボット系では、『ガンバスー』『エヴァーード機』。リアルロボット系では、『サイバスー』『ゲシュペンス』と…転生者は私達だけではないと思っていたが、ここまで多いとはな。

ピッピッピッピ

『まもなく、目標地点に到着します。パイロット各位は、機体の最終チェックをお願い致します。大変厳しい現状ですが、無事に帰還されることを祈っています』

C.Pから連絡が入つて来た。

この日の為に、用意された改良型光線級B E T A銃タイプを手に取つた。これは、インターバルの問題をリボルバー式にする事でその問題を解決させた。ドックファイトでは、使えないだろうが降下中に戦術機を潰すのはちょうど良い。

『お互い、生き残つたらパーティーでもやろうじゃないか 刹那』

『それはいい考えだな。だが…これだけは言わせてもうりおう!! お盛んのはいいが、時と場所は弁えろよ』

『イヤ、セーは…ひめえ』

一人用のロックピットになぜか男女の嘗みの音声が聞こえてくる…。行く時もイク時も一緒といつも…全く、どういつ神経をして

いるんだ。

『ふつ、この程度 紳士の嗜みだ。それに刹那こそ、強化服を着ずに龜甲縛り一つで戦場に向かつとは...死ぬ気か?』

『何を言つたと思えば...この繩こそが俺とペッシュの絆! 強化服など所詮飾りだ』

変態紳士のグラハム...ドMに刹那...正直どちらもこい勝負だ。

これは、出陣前の眞みで結んだあいつとの絆...しがある限り、俺は死なん!!

『あの...他の皆たるは、出撃したのでそれから出てもうえませんかね?』

...

...

「エクシア 出撃する!!

「同じく スサノオ出撃する!!」

今度、俺もペッシュと一緒に搭乗しようとした固く心に誓つた刹那であった。

数時間後。

Side レイア

「B E T A軍諸君ー 知達のお蔭で中東アジアのほぼ全域を我がB E

ＴＡ軍の手中に收める事ができた。残る強国を倒すために皆の一層の健闘を期待する。では、まだまだ残党も居るだろ？から、後は自由行動だ！」

!!! ପାଦମୁଖ କରିବାକୁ ଆମେ ଆମେ ଆମେ ଆମେ !!!

グラハム、刹那などのエース陣の活躍により中国を落とす事に成功した。しかし、流石に我が軍の被害も酷かつた。国連軍が介入していくれば、全滅もありえたかもしれないが……しかし、なぜか介入がなかつた。

おまけに、アメリカも動きはなかつた……G弾が来た際は私自ら砲撃で撃墜しようと思っていたのだがね。

實に不氣味だ。

人類側の動きも気になるが、まずは世界各地にイナゴーの配備を急ごう。そして、同じタイミングで我が軍に集まつた世界が隠していた情報を一挙公開するとしようかな。食糧難に政治不信のダブルパンチだ。

ついでにオルタネイティブの情報も世界に公開しよう。特に、オルタネイティブなんて公開した日には、世界が荒れて楽しそうだ。なんせ、やろうとしている事が我々BETA軍と被っているからね……選ばれた人だけ別の惑星に逃げるというあたりがね。人類の反応が楽しみだ。

## 1-1話・過去編

中国を落とした祝勝パーティーを行つております。

当然、費用は私の自腹だよ。まあ、自腹と言つてもB E T A達が作つてゐる天然素材を使つた料理を振る舞つてゐるだけだけだね。私が居ては皆も楽しめないだらうから、別室でグラハムと刹那と飲んでいるよ。

今回の作戦の愚痴を聞いてあげていいよ。もちろん、聞くだけだけだね!! その話を聞いていたところから馬鹿だという事を再認識されせられた。

何処の世界に、亀甲縛り一つで戦術機にのるアホが居るんだ…。何処の世界に戦術機で戦闘しつつやつてゐるアホが居るんだ…。

「…」

二人がお互いを指差した。

あ、頭いて——〇一二

なんで、こんなのがB E T A軍のヒースなんだよ。

しばらく三人で飲んだ後に私は、夜風に当たる為にハイブの外へと出た。月が綺麗な夜空であった。もっとも、綺麗なのは見た目だけだがね…あそこは地球をはるかに遠く地獄絵図となつてゐる。

「私がここに来たのもこいつ由だつたな」

遡る事、今から数か月前。

なんか、ベッドが硬い……まるで岩の様だ。毛布を掛けて寝たはずなのに夜風が冷たいよ。

私は、眠い目を擦りながら体を起こした。

「…………なんだ、夢か」

見渡す限りの荒れ地!!

私は、確かに実家のベッドでティファニアと一緒に寝ていたはずだ  
し…それに、月が一つなんて夢以外の何物でもない。

そういう訳で、やよつなら私の夢。

プ プ プ プ プ プ プ  
ン ヌ ヌ ヌ ヌ ヌ ヌ

私の耳元で蚊が何度も往来してきた。

ブチ

「...」

— — — — —  $T_1 T_2 T_3 T_4$

思わず力が入ってしまい、辺り一面をA・Tフィールドでプレスしてしまった。当然、自分もろとも…夢なのにまるで自分が潰されたかのように痛い…といふか、これ夢じゃ無くな!!

そう思った瞬間、一気に眠気が吹っ飛んだ。

「…何処よ…」

30分後。

少々取り乱したが大分落ち着いてきた。

まずは、落ち着いて私に身に起つた事を考えるんだ。恐らくだが…月が一つしか見えない事からハルケギニアではないだろう。ここがどんな場所かは、定かではないが…地球型惑星である為、当面の食糧には困ることはないだろう。もっとも、最近では食事をせずとも問題ないがね…ティファニアと暮らしている内に私もだいぶ進化したようだ。私にとつて食事とは、煙草などの嗜好品と同じなのだよ。

次に、なぜ私がここに居るかだが…こんな芸当ができるのは、ハルクしかない。時間や次元、異世界、死後の世界などを自由に行き来できる人材を何人か知っているからね。だが、今回の一件は、恐らく…ティファニアが原因だろう。

私の記憶が確かなら寝言で『おいしそうなカニさんが一杯です。食べて…レイアさん、取ってきてください』とか言っていたような気がする。そのカニさんが何を意味するかは知らないが、その言葉を言い終えた後に”世界扉“の呪文を寝言交じりで唱えていた。

あの時、私も眠かったのでそのまま寝たのが間違いだった…ティ

ファニアを起こすなり逃げるなりすべきだったが…眠気が勝つてしまつたのだよ。

「とりあえずは、人里を探そう。うまくいけば、知的生命体位は、いるだろ？」「

私は、人里を探す為にその場からとびだつた。

この世界に来て早一一日。

「ここも無人か…」

これで三つ目の街なのに既に廃墟と化して誰もいない。しかも、ここを廃墟と言つていいかも疑問だがね。なんせ、建物の残骸なんて何もない…あるのは、建物が立つていてある後だけなのだから。

だが、収穫はあつた。

私の手には、世界地図が握られているのだ!!

これを見た時には、もうビックリしたよ。だって、身に覚えがある形だなと思ったら…日本とかアメリカとか国があるのだからね。いやー、懐かしいね。本当に何年振りだろ？

だが…犬のせいで以前に滅ぼした地球とは若干違うようだな。ラオウ様やビダー・シャル含めた知人エルフが暴れた場所にしては原型を留めすぎている。よつて、パラレルワールドである事は間違いないだろう。別世界の地球だとしても人口60億近く人間は居るはずなのだが…人気が全くしない。無人のゴーストタウンなど早々ある物じゃないだろうにね。一体どうしたんだろ？

とりあえずは、海にでも潜つて晩飯でも確保しよう。折角、地球上に来たのだ。久しぶりに故郷の魚の味を賞味しよう。

海岸沿いにて。

パチパチ

リトルクラッカーを使つたダイナマイト漁のお蔭で大量の魚をゲットした。何匹かは、乾燥させて保存食にしよう。焼け具合からしてまさに食べ頃だ…だが、生憎と吃べるのは少し後になりそうだ。

人の気配がする。

「おいおい、こんな場所で火を焚いたら居場所を教えているようなものだぜ。そんな事したら、良からぬ輩に身ぐるみばがされるぜ」

「はははは、ちげねー」

二人組の男たちが現れた。

「それは、『忠告感謝します。それで…身ぐるみばがされる前にいくつか質問よりしいですかな?』

「ああ、なんでもいいぜ」

どうやら、私の身に着けている宝石などがたいそう気になるようだ。いいだろ…エルフが作った品物だぜ。この世界じゃあ一つもない貴重品だ。

一応確認しておくか。

「……って、太陽系第三惑星地球であつているかい？」

「はあ？」

「つむ、実に予想通りの反応だ。

「いや、だから……は地球かつて聞いているんだよ」

男達がお互いの顔を見合わせていろ。そして、私をまるで可愛そつな子を見る様な顔をしている。

「はつはまはま、……まで頭のいかれた奴は初めて見た。いやー、BETAのせいで頭までやられたってか」

「くつくつく、ああそだへ地球によつた。宇宙人さん」

一人が大笑いしている。

それにしても……あれ？ 今何か聞き捨てならない単語を耳にした気がする。

「おい、そこの人間。今、BETAとか言わなかつたか？」

「ああん？ それがどうした」

なんてこつた!!

確かに地球だけど…すでに詰んでいる地球じゃないかよ。早急に逃げ出したいが…この広い宇宙でハルケギニアの座標など分からんし、それに同じ宇宙にあるかすら疑問だ。…と言ひ事は、私に出来るのは迎えを待つだけと言つ事か。

そうと決まれば、まずは情報収集だ。

「二人も不要だ…『自害しき』」

パーン

一人の男が銃口を頭に付けて引き金を引いた。

「さて、お前の知っている事を全て聞かせ持てりおつか…。安心しり、すぐに仲間の後を追わせてやる」

「てめえ!! ぶつ殺してやる」

……

……

数分後。

「自慢のマシンガンもA・Tフィールドの前では、水鉄砲にも劣る。男を優しく尋問した後に母なる海へとお返しした。なるほどね…」これが、あのマブラブオルタの世界か。しかも、桜花作戦三日目前つてどういう事だよ。

こういつ異世界來訪系とかは、原作開始前とか開始と同時に来るものだらう。なんで、もう終盤なんだよ。

「まあ、原作嫌いじゃないし…少し手伝つてあげようかな。異世界だし、少しふり羽田を外しても誰も文句はいわないだらう」

そうと決まれば、参戦しますか。大びらに参加して、無駄な混乱を招くと悪いから…原作組を反対側から単機で挑むかね。さあーて、どつちが早く『あ号標的』にたどり着くか勝負しよう。

数日後。

主人公一行の作戦が開始されたのを聞いて、私もオリジナルハイヴに潜っている。

それにしても…まつたく、倒しても倒しても湧いてくるのだから性質が悪い。おまけに、北斗神拳は効果ないから「お前はもう死んでいる」じつこが出来ないではないか。

モサモサモサ

前方に再び戦車級が山程湧いてきた。

「おいおい、いい加減。そのキモイ面見飽きたんだよ。ラミエル… 薙ぎ払え」

ドコーン

ラミエルの形状が変化し、前方の敵を荷電粒子方で薙ぎ払った。いつみても、素晴らしい威力だ。前方にいたB E T Aが綺麗さっぱり居なくなり、視界もスッキリだよ。

それにしても…さつきからどうも我々に敵が集中している気がする。考えられることは一つ、「あ号標的」に主人公一行より危険度が高いと認識されたか…。まあ、あれの助つ人としてきてるわけだし…構わないか。主人公一行には、最後に私も連れて脱出してくれれば、それでいい。

数十分後。

迷った。onz

だんだんと深部に近づいているのは、士のメイジとしての直感でわかるのだが……こんな事なら、ゼルエルのビーム一撃で地下まで貫通させて「あ号標的」の居る場所に直接攻め込めば良かつたな。

パンパン

あれ？ 今遠くで銃声が聞こえたぞ。と言う事は、近くに人間が居るという事か……道案内にはもつてこいだな。えーーと、どこどこだ？

ラミエルと一緒に銃声がした方を探つてみた。

「ふむ……大破した戦術機と生き残りの兵士が一人か。だけど、ただの人間が強化服一つで生き残れる程ハイヴ深部は甘くは無いよね」

機体がラプターである事から、恐らくアメリカ兵だろう。それに、こんな深部に居るという事は、何やら訳がありそうだね。色々とお話を聞けそうだわ。私が考えている間に、唯一の生存者に騎士級BETA Aの魔の手が迫っていた。

まだ情報を聞き出す前だから殺されるわけにはいかないんだよね。私は手に持っていた黄薔薇をBETAに向かつて投擲した。

ズキューーン

黄薔薇の直撃によりBETAを沈黙させた。やはり、薔薇族の武器

は強いな。拳銃で殺す事が困難な相手ですら一撃とは恐れ入る。さて…まずは、ご挨拶と行きましょう。

「「んばんは、今日も良い天氣ですね 御嬢さん」

「「んばんは…はっ!! 危ない所を助けていただきありがとうございます。私は、アメリカ陸軍所属アメリカ・サービス少尉です」

やはり、アメリカか…。と言う事は、ここにいる理由は迷い込んだわけではない。恐らく田標は、「い号標的」…アメリカが程から手が出る程欲しがっているG元素の精製プラントと言つ事か。

それにして、礼儀正しい挨拶とは裏腹に…随分と大胆な行動でますね。

「いい加減、銃口を私に向けるのは止めてくれないかな。間違つて引き金でも引かれたらたまたものではないからね」

「命の恩人相手に私も非常に忍びないのだけど…貴方の所属と目的を聞くまでは、下げる事はできません。それに、一体どうやってここまで来たのです。強化服すら身に着けず、槍一本で突破できるほどハイヴは、甘くはありません」

銃口を向けなければ、少しは長生きできたかもしぬないが…残念だ。

「所属ね…あえていうならば無所属だよ。後、ここまでは徒歩と空を飛んできたよ…いや、マジで。後ね、生身でここまで来られる様な人物に拳銃なんておもちや向けても何の意味もないよ。《両足を撃ち抜け》」

パン

「きやあああああ!!」

甲高い悲鳴が響いた。

『あ号標的』の場所を吐いてもひこまじょひ

レイアの優しい尋問により、『あ号標的』の場所が判明した。もつとも、米軍が知っているのは横浜の魔女である香月先生によつて改竄された情報ある為、どいままで正しいかが疑問ではあるが…少し位役に立つだろひ。

そうそう、尋問を終えた女兵士の事だがBETAに美味しく頂かけたのは言ひまでもない。…私悪くないよ。尋問後に、床に放置していたらBETAが沸いてきた勝手に食べられたのだからさ。

さて、『あ号標的』田指して出発!!

30分後。

あ号標的の台座にて。

多少道に迷つたけれど、なんとか『あ号標的』にまでたどり着けました。『あ号標的』がいる部屋に入る際にシェルターの様な物があつたので色々とぶつ壊してきました。

「それにしても、予想以上にデカいな…そして、触手もデカすぎだろう」

ゲーム画面で見た『あ号標的』は、あまり大きく感じられなかつた

が… 実物を見てみるとマジで『テカイ!! それにしても、来るタイミング  
が少し悪かったな… まさか、『あ号標的』を挟んだ向こう側で主人公一  
行どバトルの真っ最中だったのは予想外だ。

そのおかげでどちらも私の存在に見向きもしない。

とっても、悲しい… 私だって功労者なのに誰にも評価されない…

おっし!!

ちょっとぐら、 反対側に回り込んで挨拶するかな。

「やつ玉玉玉玉玉玉玉玉!! A・Tフィールド全開!!」

私が挨拶をしにいった瞬間、凄乃皇による荷電粒子砲撃が私に迫つ  
て来た。思わず、広範囲に全力でA・Tフィールドを開いてしまつ  
た。そのおかげで、倒すべき目標であった『あ号標的』すら守つてしま  
うという失態をしてかした。

ド、ドーナン

少々揺れはしたが、所詮よくみる荷電粒子砲撃だ。A・Tフィール  
ド一枚すら破られなかつた。そして、視界が晴れると凄乃皇から脱出  
ポットが大空に向けて発射されるのが見えた。

「ひ、ひでえ… 置いてきぼりかよ」

……

あれ？この後何かあつたような・・・

はつ!!

「ラミエル!!」

## 12話・権力者達

某合衆国の秘密クラブにて。

高そうな天然素材をふんだんに使った食材が並べられている。

そして、ワインを片手に料理をつまんでいる複数人の男達がいる。

「最初は、新たな『あ号標的』など絶望したが…存外役に立つたな。まさか、中国を潰してくれるとはな」

「私が、国連に圧力をかけて国連軍の派遣を渋つた功績を忘れないでいただきたい。あれには、相当苦労したのだよ」

「はつはつは、そうでしたな。おかげで、オルタネイティブ5の空席ができましたな。確かに議員Aは愛人分の席が欲しいと仰つておりましたね。すぐに手配致しましょう」

「全く、BETAですら食い物にする人間とは恐ろしいですな」

「オルタネイティブ5を担つている大企業の会長とは思えないセリフですね。オルタネイティブ4の功績で大きな顔をしているアジア連中にいい薬になつたと喜んでいたではありませんか」

「一りや、一本取られましたな。ところで…いつのオルタネイティブ5を実行に?」

「既に、オルタネイティブ5推進派が各地で動いている。もう聞もなく、実行に移されるだろ?」

「それにしても、『全人類で選ばれた10万人を地球から脱出させる』

となつてゐるが、その選ばれた人類の半数以上がアメリカ人だと言つ事に一体どれだけの人間が氣付いているのかな

「誰も氣づかんさ…なんせ、この計画をしてゐる物が極めて少ないからな。他国のクズや我が國の國民が氣付く頃には我々は既に宇宙に居るぞ」

「この会話が、まさかBETAに盜聴されておりそれがあらう事か生放送で世界中に放送されてゐるとはここに居る者達は思いもしないだろつ。

ちなみに、新型の隠密撮影用BETA・アンダースポット によつて放送されている物である。

プチン。

私は、見るに見かねてテレビを消した。

……  
……  
……

「我々ですら食い物にするとは…人間怖いね。だけど、この放送を見た世界中の人間の反応が楽しみだと思わないかい?グラハム、刹那

「間違いなく。暴動が起きるだろつな。特に先日の生き残り達にとっては、寝耳に水だろつ」

「同じく

やつぱり、二人もそう思うつか…だが、それがいい!!

内部から瓦解していく様を見るのも悪くは無いだろう。だが、その前にやるべき事があるな。

「ちよつと、宇宙について人類の希望とやらを我々BETA軍の宇宙船にしようと思つたが、どうだろ?」

「ついで、BETA軍のポイント表に宇宙旅行を追加するといつ事が娘達と行くと三人分か。お父さんは、頑張らないといけないな」

宇宙旅行か…悪くないね。宇宙船が確保できたあつきには、宇宙旅行も視野に入れておこう。

「一つ聞きたい」

おり、珍しく刹那が質問してきた。

「なんだい? 刹那」

「宇宙で出産したら…その子は宇宙人なんだろうか?」

……

……

しらねーよそんなの!!

余談だが、例の特別生放送は視聴率が全世界で75%を超えた。まさに、世界的記録を塗り替えたと言つても過言ではないだろう。途中から生放送の一件がばれてしまい、隠密撮影用BETAが始まされたのは残念だが…あの議員たちの慌てよつは実に楽しい物だった。

私は、すかさずBETA軍総務部のイヴに連絡を付けて、オルタネイティップに関するすべての情報を公開させた。相手が先手を打つて偽情報を流さないようにね。いやー、良い仕事をした。

やはり、秘密主義はよくないよね。

後日。

今、世界は浄化への一步を踏み出した。

先日、我々BETAが流した生放送と公開されたオルタネイティップの詳細情報のおかげで世界規模の暴動が起きているのだ。当然、各国もBETAの戦略だと偽情報だとか言つてはいるが、無駄だろ？。

なぜなら、私がオルタネイティップで使用される予定の宇宙船を全て抑えたからね。そして、その宇宙船の一機を証拠として、太平洋に着水させている。言い逃れようのない証拠だ。

念の為、世界各国の情報を確認しておくか。

「アダム、世界各国の状況は？」

「概ね、レイア様の予想通りです。国連軍並びにアメリカ軍に対するバッシングが世界規模で行われております。特に、アジア一帯でのバッシングが酷く、既に銃撃戦になつた場所もあるそうです。また、米国内でも政治に対しての不満が爆発し各地でデモが行われているとの事です」

この世界で唯一の大団であるアメリカ相手に世界中の国が襲い掛かるか…いいねー。

世界が狂喜で満ちていく。

「では、ここいら辺で私が世界の不満を解消すべく手を差し伸べようじゃないか。生放送の準備をしてくれ」

「わかりました」

アダムとの通信を切つた。

BETA軍報道局にて。

『世界中の皆さん、こんばんは。『あ号標的』のレイア・ライシス・ド・ヴェーグルです。今の皆さまのお気持ち心中お察し致します。今まで信じてきたものに裏切られ、見捨てられ、あまつさえ捨て駒扱い：これでは死んでいった仲間もうかばれないでしょう。そこで、私は皆様に出来る事は無いのかと思い色々と考えました。そして、思いついたのです…先日、我々BETA軍の生放送時点でのアメリカの全国会議員並びに大統領、オルタネイティブの情報を知りえた国連軍とアメリカ軍上層部の全員の首を差し出せば、三ヶ月間我々BETA軍は全ての活動を停止致します。もちろん、攻めて来るようでしたら防衛はしますけどね』

決して悪い取引では無いはずだ。だって、三ヶ月で死ぬ人間の数は優に数万…下手すれば数十万だ。それが、数百人の首を差し出すだけで済むのだから実に効率のいい取引だ。

『誰の首を差し出せばいいか分からぬから、我々BETA軍の方でオルタネイティブの情報を知りえた人達の情報を公開しましょう。案外、皆様の身近に住んでいるかもしませんよ…。我々と鬪うか、人の命をゴミとも思わない連中の首を差し出すか、お好きな

方を選ぶといいでしよう。ああ、言つておきますが…政治家の首が出そううまでは我々の活動は停止しないのであしからず。最後に、これを聞いてくれている皆に一言…今こそ一丸となり、凶悪の根源を根絶やしにする時である!! 立てよ 国民!! そして、自らの手で平和を掴み取るのだ!!』

「はい、カット!! お疲れ様でした レイア様」

ふうー。

やはり、なれない事は難しいね。

これが私に出来るせめてもの慈悲だ…三か月の平和を勝ち取る為に頑張ってくれ。少なからず応援しているよ。もちろん、こちらの進軍の手は休めないけどね。

「おっし!! 次はヨーロッパを全部落すぞ!! 人類が短い平和を勝ち取るが、我々が先に根絶やしにするか勝負とここう

ちなみに、その日以来アメリカ各地で議員が殺害される事件が多発した。もちろん、殺害された議員が偽物でないかを確認する為に我々BETA軍が死体を回収し、検証した後に生き残りと死んだ人数を放送していった。

Side とある米国一般市民

例のBETA軍の放送から三日後。

私は、数十人の武装市民や他国の兵士崩れと共に国會議員宅の近くに身を潜めている。

「今、仲間の警備兵から連絡があった。議員が帰宅したそうだ。全員、準備はできているな」

「ああ、問題ない」

今から、私がやろうとしている事が本当に正しいかななど、もはやどうでもいい。例え間違っていたとしても、誰も責める事など出来ないのだから。

一時の平和の為、死んでいった同胞の為…悪いが死んでくれ。

「今から2分後に突入し、議員Aの首を取る。いいか、相手を人間だと思つな…人間の皮を被ったB E T Aや悪魔だと思え」

リーダーが全員を励ます。

ああ、分かつているよ。自分たちを犠牲にして自分達だけ別の惑星に逃げようなんて連中同じ人間であるはずがない。

## 13話・人間辞めました

BETA軍より平和への殉教者リストが公開された早一ヶ月…世界では、未だに政治家や軍上層部を対象にしたテロやデモ行動が多く行われている。

「人類は実に愚かな生き物だ…だが、そこがイイ!!」

そのおかげで、軍の指揮系統は何処も壊滅的と言つてもいいだろう。中でも、米軍や国連軍の混乱ぶりは群を抜いている。おまけに、兵士の士気も最低ときたものだ。まさに、人類側にとつては踏んだり蹴つたりである。

「そのおかげで我々は苦もなくヨーロッパを落とせたわけだ…それにしても、歯じたえが無さすぎるぞ!!」

「自業自得だ…だが、そんな人類に対しても一切の手加減はしない!! それが俺達BETA軍だ!!」

グラハムと刹那がかっこいい事を言つているけど、やつている事はただの虐殺だけどね。BETA軍の働きのお蔭で残る強国は、ソ連とアメリカだけだな…もはや人類の命は風前の灯だ。

小国は多々残っているが、昆虫型BETAイナゴーの働きにより世界規模で飢餓が広まっている。今では軍人ですら一日一食あればいい位だ。

「しかし、本当に手加減しないよな…白旗振つている敵にすら問答無用だからな」

「愚問だな。例え俺が殺さなくともほかの誰かが殺すだろう。ならば、俺のポイントにする方が有意義だ」

素晴らしい高説ありがとう刹那。やはり、お前等最高だ。

「流石は、ガンダムマイスターだ。世界の歪みと闘うキャラの言う事は、やっぱり違うな。その調子でどんどん殺してくれ。もちろん、グラハムにも期待している」

「任せておけ」

レイア私室にて。

「殉教者リストの消化状況は、どうなっている？」

私は、部屋に備え付けてあつた通信機でBETA軍のイヴに連絡をした。

「はい、現時点の消化率は約60%です。最近では、議員や軍上層部も警備に戦術機まで持ち出すようになり、あまり進んでおりません。後、本日 我が軍に有益な情報を持つて投降して来た米国の者が数名おりますが、いかが対処致しましょう?」

ほほう、人類側については逃げ切れぬと悟ったか、良い判断だ。

「本来なら情報だけを奪つたうえで始末するのだが…私もそこまで鬼ではない。情報次第では、次の補充要員として優先的に枠をあてがつてやう。それで、持つて来た情報は確認したのだろうな?」

「もちろんです。グレイ・ナインの研究資料と凄乃皇の資料です」

おお!! ついにこの時が来たか!!

我が軍でもグレイ・ナインについては研究させていたが研究者の質が米国とは比べ物にならなくてね。そのおかげで、研究はあまり進展がなかつた。だけど、米国から持つて来たといつ資料があれば我々でもG弾生成が可能になる日も近いだろ？

おまけに、凄乃皇の資料まできたとなれば、ムーコック・レビテ搭載型の戦術機も夢ではないな。

やる気が湧いてきた!!

「イヴ…その者達を丁重に扱つてやれ。次回の募集で、その者達に枠をあげる」

「異なりました」

ソ連では、研究者や戦術機の開発に携わつてゐる者達を捕獲してBETA軍で働くか死ぬかを選ばせてあげよう。きっと、捕まつた者達も私の優しさに感化されて、喜んでBETA軍で働いてくれるに違いない!!

数日後。

恐口シア…じやなかつた、ソ連攻略作戦の見学に來てゐるレイアです。

国連北極海方面第6軍 ペトロパブロフスク・カムチャツキー基地にて。

指揮系統がボロボロの軍など、命といふ名の結束で結ばれたBETA軍にとつて敵ではない。しかし流石、ソ連だけあつて衛士の熟練度

は目を見張るものがあるが…それでも、我々の新動力搭載型の戦術機があるかぎり、我々の勝利は搖るがないがね。

「切り捨て!! 御免!!」

「俺達はBETA軍。戦争根絶を図差す者!! エクシア、目標を駆逐する」

おうおう、絶好調じゃないか。

やはり、動力源としてML型抗重力機関を搭載させただけの事はあるな。やはり、滞空可能というのは大きな強みだな。あまり、空を飛んでいるとハチの巣にされかねないがな。

「絶好調だな 二人とも… どうだい人間をやめた気分は?」

『存じのとおり、ML型抗重力機関搭載型の機体は人間には操る事が出来ない。なんでも、ML機関から発生する重力場の影響で人間がその影響範囲に入ると内側からボン!! と爆発してしまつそうだ。

原作では、OOゴーットの演算能力があつた為 主人公が搭乗できたという設定だ。当然、私にはOOゴーットを作るだけの知識は無い。生憎と曰 「あ号標的」 にもその知識は無く、お手上げだった。

要するにだ… 人間で乗れないなら人間を超える存在に乗つてもらえばいいのだと思い今に至つたのだ。筋肉、骨格、脳まですべてがBETA産の特殊は物を使つていてる。

「BETA軍に入つてから既に人間である事を捨てた身だ。いつもと何ら変わらん」

流石は、エリート軍人ハムの人だ… 言う事が違うわ。

「俺も問題ない。だが……一つだけ言わせてもらおう」「う

「なんだい？」

じつせくだらない事なのだろうが聞いてあげよ!」じゃないか。

「これは、犬耳で有つてキツネ耳じやああああああああい!!」

「どこが違うの？」

「断じて違ああああああああう」

ちなみに、刹那は本人経つての希望で耳を頭部に付けている。なんでも、愛玩用とお揃いにしたいそうだ。全く、変態の考える事は全く理解できん。

「じゃあ、IIRの制圧戦でトロマスクア出したら無料で治してあげるよ

「その言葉忘れるなよ!! 今日の俺は、阿修羅すら凌駕する存在だ!!」  
あ…それハムの人のセリフ。

「それは、私のセリフなんだが……」

物凄い勢いで刹那が制圧戦中の基地へ飛び込んでいった。しかも、ラザフォード場まで発生させて敵の歩兵をミンチにしていやがる……えげつねーな。

「では、私もそろそろ行かせてもらおう」

「しっかり働いて来い」

私は、ハムを見送った。

「そつそう、可能な限り研究者は殺すなよ… つてもういないか」

数日後、レイアの私室にて。

『レイア様、合衆国政府より通信が入ってきております』

おひ?

珍しい所から通信が来ますね。

『繋げ』

『はい』

ディスプレイに合衆国政府の偉そうな人が映った。ソ連が落ちて次は我が身と思ったかな。いいだろ?、話くらいは聞いてやろう。

## 14話・レンタルBEETA

合衆国政府のお偉いさんと会話中のレイアです。

対話を始めて既に、三分が経過しようというのに相手が一方的に話していく。次に標的はどこだと、BEETA軍の捕虜を開放するから進軍をやめるとか、イミフな事を行つてゐる。攻める国なんて私の気分次第だ。

だが、その事を教える必要性は、全く感じない。いつ攻め込まれるかわからないから楽しいんじやないか。

後、我が軍の捕虜など存在しない。相手に捕まつた時点で我が軍の貴重な人員枠に空きが出来る事になるのだからね。

『IJのままくだらない事を言つてると今後通信は遮断するぞ』

『ま、待つてくれ!! 本題はこれからだ。決して悪い話じゃない、だから最後まで聞いてくれ…後、この対話はオフレコでお願いしたい』

気になるな。圧倒的優位にある我々に對して良い話を持つてきてくれるなんてね。しかも、オフレコと来た。

『よからず。これからのはすべてオフレコだ（米国以外の各国に生放送しin）』

『手間をとらせてすまない』

一ヤ一ヤ

合衆国のお偉いさんはバレないように、脳内で命令を飛ばした。相手がこれから話が世界中に聞かれるとなつては、尻込みしてしまふかもしないからね。このくらいの配慮当たり前だ。それに…人類を殲滅しようとしている存在に交渉の余地などあるはずなかろうに。

しかも、相手がオフレコと言ひくらいだから きっと誰にも邪魔されない場所で通信をしているはずだから、世界中に放送されていることなど知るのに時間がかかるだろう。ああ…楽しみだ。

『我々、合衆国が保有する全てのG弾及びあらゆる技術をBETA軍に受け渡す準備がある。かわりに、合衆国には不干渉とお願いしたい』

…え!?

あまりの弱腰に予想外だぜ。てっきり、徹底抗戦の構えがあるとか、実はG弾より強力な爆弾があるぜとか そんな話を期待していたんだが。

『正直、魅力がない提案ですね。このまま、進軍していればいずれは手に入れられる技術です。我々にとつて、それが多少遅かるうと早からうと問題ではない。それに、他国を見捨てて自分だけ先に安全地帯に逃げようと言う魂胆が気に食いませんね。後、そんなこと他国が見過ごすはずありませんよ』

『ならば、合衆国全てとは言わん…5万人。それだけの人間をBETA軍の保護下において欲しい。後は、他国に悩られないように進軍をしてもらつて構わない』

一気に、人員を減らしてきたな。それにしても5万人ね。確か、オ

ルタネイティップ5で逃げる合衆国の人員がそのくらいだった気がするな。

『なるほどなるほど、確かに五万人程度なら我々BETA軍が持つているiformを何匹か使えば一気に運び出せる人数だ』

『ならば、この取引で『だが、断る!!』

相手の嬉しそうな顔が一気に絶望へと変わった。

きもちいいーーー。

『最初にも言ったように、我々BETA軍の人員は1万人が上限だ。多少の例外はあるにせよ、五万人など到底受け入れられない。それに、既に情報が行っていると思うが…お前らのメンバーの一人が既にグレイ・ナインの資料を携えて亡命してきている。要するに…待つていれば、勝手に情報を携えて来てくれるんだよ。だから、こんな交渉など無意味!!』

『合衆国が保有する全てのG弾が、オリジナルハイブに向けて発射されることになるかもしませんよ』

確かに、G弾は驚異だが…グレイナインの資料の中にG弾に関する資料も混ざっていてね…既に目を通している。「あ号標的」を食つていなかつたら書いてある内容なんて理解不能だつた。だが、流石は宇宙生命体だ…あの資料を見ただけで既に対抗策が思いつくとはね。まだ、実践で試してないから不安は残るが恐らく問題なく対応できるだろう。

『くつくつく、楽しみしていますよ。では、『健闘をお祈りします』

『待ってくれ!! まだ話が…』

通信途中であつたが、切断した。

さて…次の準備取り掛かるつか。

『イヴ、今の会話は?』

『合衆国をのぞく世界各国に放映いたしました』

『よろしい。では、BETAの増産に取り掛れ』

イヴに命令を出した。これで、数日後には数万のBETAが誕生するだろう。

「今の放送を見てきたのだが、随分と楽しそうだな。それで、今更BETAを量産して何をするんだ?」

「グラハムか。なーに、合衆国相手に喧嘩を売れない弱小国にBETAの貸出や。きっと、楽しくなるや」

自分たちを見捨てて逃げよつとした大国に喧嘩をするチャンスをあげようなんて、私はなんて慈悲深いのだろつ。

数日後。

合衆国を除く各国にてBETAの貸出を始めたレイアです。

しかし、ここにきて思わぬ問題が発生した。貸出申請が予想以上に少ない。いや、少ないと云うか…聞いた事ないような小国からわずか

に申請があつたくらいだ。

なぜだか理解できない。

貸出料金が問題なのだろうか…いや、そんな事はない。すぐリーズナブルなお値段だから、決してどの国も借りられないハズはない。

「兵士級と騎士級が人間一人。戦車級と光線級が人間三人。突撃級と要撃級と重光線級が人間5人。要塞級が人間50人と大変お買い得はずだ。確かに、BETA軍相手には使用制限をかけてはいるが、無期限レンタルと大盤振る舞いなのだがな。どうおもつ、刹那、グラハム」

「BETAに耳が無いせいだと、俺は思う

…君に聞いたのが間違いだよ 刹那。

「確かに、ここまでレンタル申請が来ないのは不可解だな。各国の意見を募つてみてはどうだ?」

よい提案だ グラハム。

『イヴ、至急各国にこの件を調査してこい』

『かしこまりました』

翌日。

『レイア様、先日の件調査結果が纏まりました』

『すいぶん早いな。報告しろ』

さてさて、どんな回答がくるかな。やはり、貸し出すならばBETA軍の戦術機などを希望しているのかな。それとも、私自身をレンタル希望かな（笑）

『はい。まず、全体の8割が貸し出されるBETAに対しての不満です。次に多いのが人命をなんだと思っているといった意見です。後は、聞くまでもないたわいもない物です』

やはり、レンタル可能なBETAが問題か…。しかたない、少しだけ制限を解除してやろうつかな。

『その8割の連中は、なんのBETAを希望しているのだ？ 大体想像は付くが、一応聞いておこう』

『8割の意見の中の9割が愛玩用BETAの貸出を希望しております。要するに、私たちのようなBETAを貸し出して欲しいともし、貸してもらえるならば一体当たり500人の命を差し出すと言っている者達もおります』

あ、頭いて……。

なにそれ、もしかして負け戦だから人生最後くらいエロい事して終焉を迎えるといった結論に至ったのか!? それに、こんな決断ができる権力者なら女なんて入れ食いだろつ。それとも、人間の女には飽きたとかいうリア充なのか!?

だけど、そんなしょぼい人数では話にならんぞ。BETA軍内部だって、愛玩用BETAは高額商品だ。軍人を1万5千人KILLしないと手に入らないようなものだ。それをたかが500人と交換など有りない。

『そのハ割のアホどもに、愛玩用BETAが欲しければBETA軍が提供してこのポイント表の二倍の人間を提供しようと伝えておけ』

『かしこまりました』

数日後。

『レイア様、今日までに愛玩等BETAの申請数が50を超えた。ちなみに、アメリカから国籍を変えてまで愛玩用BETAを手に入れようとしているものも居るみたいです』

……

……

こんなに簡単に人命を差し出してくるなんて……人類なんて、わざと滅びてしまえ!!

人がせっかく量産したBETAではなく、愛玩用BETAをどういうことだ。お前ら、合衆国が憎くないのかよ!! 女の子とにやんにやんしている暇があつたら、わざと反逆しろ!!

ちゃんと仕事しろ!!

くつそ!!

しかし、宣伝してしまった手前 約束は守るレイアです。嘘をつくのは良くないからね。在庫になってしまったBETAたちには申し訳ないけど、各地のハイブへ送つて防衛の仕事に付いてもらおう。

人間の欲望を甘く見ていたレイアであった。

## 15話・わらじべ長者

合衆国の某大農家にて。

「くつくつく、まあか難民がこんな時に役に立つとは思つてもみなかつたな」

我が一族は、長年にわたり合衆国の農産業を支えてきた。BETAが地球に現れるまでは、地位が低く見られる傾向があった。しかし、今では各国の首脳陣ですら俺に頭を下げるくらいだ。全く、良い時代になつたものだ。

最近では、慈善事業として難民に対し食料の配給なども引き受けている。正直、なんの役にもならん連中に飯をくれてやるなど狂気の沙汰だつたが…流石に、合衆国からの命令には逆らえん。あいつら、戦術機まで持ち出してきて首を縦に振らせてきたからな。

いくら、票を確保する為とはい、やりすぎだろつ。おかげで、俺が何をやっても黙認されているがな。人間食わなきや生きられんから、食料を餌に難民の女を食いまくつてこる。世界各国から難民が集まる合衆国のおかげで、俺が世界中の女を食べ放題だ。

しかし、流石に人間の女に飽きてきたと思つた矢先に先日の事件だ。

BETA軍がBETAの貸出なんて「冗談みたいなことをやり始めやがつた。しかも、アホな合衆国の大暴露の後にだ。おかげで、政府は相当焦つたらしい。万が一、受け入れる国家があるならばG弾使用も考慮されたと聞いた。実際、いくつかの国がBETAをレンタルしたがG弾は発射されなかつた。

恐らく、採算がとれないといつ理由だらうな。知も知らないような  
小国に貴重なG弾を使  
う訳にはいかないだらうからな。

そんな話は置いておいてだ。

要するに俺は、合衆国にいる難民のほとんどを自由にできる権利があるんだ。そして、人間の女は抱き飽きた。ならば、導き出される答えは一つ!! BETA軍が扱っている商品に田が行くわけだ。

今までも何度か今の地位を持ちこじてBETA軍に所属して、一足の草鞋を履けないかと必死に考えたが無理だった。合衆国は、なんとか騙せてもBETA相手にはどうしてもアイディアが浮かばなかつた。

書類上の国籍さえ変えてしまえば私は合衆国の人じやないからセーフとこつ裏ワザだ。

だが、今回の一件でその悩みも解消されたのだ。不要なモノを処理するだけで、私が欲しいモノが手に入るのだから、嬉しい限りだ。数十万いる難民の内たかが、数万消えようと問題では無い。それに、合衆国に足がつかない用意に色々と根回しも完璧だ。

「アルフォンス様、件の商品が届きました」

もう来たのか!!

難民キャンプの位置をBETAに提供してから、僅か一日で届けてくるとはな。執事の報告では、難民キャンプが突如巨大ワームに丸ごと飲み込まれたという話だが、私の知ったことでは無い。

「ちーす、三河屋です~」

「ぶーーー!!」

今、世界の話題の中心ともいえる「あ号標的」がそこにいた。人の顔をみて噴き出すなど紳士としてあるまじき行為だが… これは流石に私が悪いはずがない。

いきなり、人類最大の敵が宅配をしているのだ… これが驚かずにはられるはずがない。

「愛玩用BETAお届けに参りました。ここにサインをお願い致します」

「ああ…印鑑が無いんでサインでもいいか?」

「もちろん」

……思いのほか好意的な。付き合ひ方さえ間違わなければ、なかなかいい相手ではないかと思つてしまつた。

かきかき

「確かに…では、これからも『麗鳳』に」

「ああ、これからもよろしく頼むよ」

そういつて空の彼方へ飛んで行つた。

「セバスチャン!! 分かつてゐると思つが、しばらくの間誰もこの屋

敷に通すなよ。例え、政府高官でもだ

「やめなで」<sup>アリ</sup>「やめな

さあ、楽しい時間を始まりだ。

## レイア私室にて。

希望者全てに愛玩用BETAを配り終えたレイアです。

「全く、世の中ゲスな人間が居るものだな。まさか、難民を餌にしてくるとはな」

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

■ ■ ■

私がぼやいでいると、イヴが、何故か鏡を私に向けてきた。随分と人間味がでてきたじゃないか。

「どういう意味だ？」

「いえ、特に……」

「まあ、よい。それで手に入れた人間共に対して処置は行なつていいのだうな？」

「もちろんです。既に、連れてきた人間の8割に処置を施しております。しかし、拒絶反応が強い為 半数以上者が死にました」

やはり、脳だけをBETAの体に移植するのは大変そうだな。せつ

かく自我をもつたままBETAにしてあげようといつアーティアが  
…。

「まあ、ある程度生き残ればよい……後、お前は用済みだ」

ド「オ————ン

荷電粒子砲できれいにぱり消滅させた。

私に対して不敬は、死を意味する。周りに人間が多いから少々性格に変化があったかもしれないが、出来損ないは破棄だ。兵器に感情などいらん。

## 16話・憎しみの連鎖

横浜基地にて。

あのバカが救つてくれた世界が、いつも簡単に滅んでいくとはね。正直、やってられないわ。

世界中の戦力を総動員して倒した『あ号標的』…。しかし、僅か一ヶ月程度で新たな『あ号標的』が現れた。しかも、以前とは異なり完全な人型として復活してきた。その姿が凄乃皇の自爆に巻き込まれた人物だった。

「やっぱり、あの化け物を倒すにはアレに賭けるしかないわね」

荷電粒子砲を防ぐだけでなく、G弾の直撃を食らっても生き残った化け物なんて人類の手に余る。おまけに、今ではBETAの力まで手に入れて完全にお手上げだわ。もっとも、その化け物が人類殲滅をゲームのように楽しんでいるおかげで生き残れているも事実だ。まさしく、不幸中の幸いというやつだわ。

「霞、準備はできているわね」

「クン

チャンスは、一回だけ。決して失敗する事は許されない。例え、成功したとしてもさらに状況が悪化するかもしれない。だけど、その時は諦めましょう。

装置の電源をいた。

あの化け物を倒しうるナーナーかを呼び寄せるための作戦だ。あの馬鹿を元いた世界に送り届ける事が出来たのだから、別の世界にいるあの化け物を倒しうる何かを引き寄せる事も可能であるはず。それが、例え砂漠でコンタクトを見つける位の可能性であろうとも、必ず成功させる!!

神様なんて信じてないけど、今では神頼みしてあげるわ。

「なんでもいいわ!! あのレイアといつ化け者を倒せる誰でもいい!!  
」この世界を救って頂戴

「お願い、助けて」

.....

機械音が響く。

「やっぱり、無理よね…………。戻るわよ 霊」

時間の無駄をしたわ。予想通りとはいって、堪えるわね。

まずは、生き残ったアホな国家共を一致団結させないといけないわね。ズタボロにされた国家間の信頼を取り戻すのは容易な事ではないが、少しでも人類を長生きさせる為には、やらねばならないわね。

「…どうしたの靈。せつねと行くわよ」

「誰か来る」

誰かつて…こんな場所に…まさか!?

その瞬間、部屋全体が眩しい光に包まれた。

光が收まると、まるで絵本から飛び出してきたかのよつた麗しい男女二人組と銀髪の美少女がいた。

「蛮族よ、先ほどレーリアさんの名前が聞こえたんですが、何処にい  
ますか?」

「お母様、話がややこしくなるから黙つてなさい」

……

……

：

理解が追いつかない。

なんだか、よくわからない連中だが恐らくあのレイアとかいう人物の関係者なのだろう。予想以上に大物が釣れた事に危うく、我を忘れそうになつた。

これで世界は、救われるわ!!

レイアの関係者にまともな人物が、いるはずも無く。例に漏れず、ここにいる三人もレイアと同類と考えなかつたのは、失策であつたと知る事になる。

香月先生の作戦が行われている同時刻、合衆国最前線にて。

「くそつたのが!! B E T Aは、基地制圧戦に参戦しないんじやなかつたのかよ」

「黙つて、防衛に当たれ。あいつら、ただのBETAじゃねーぞ」

そんなの見たら分かる!!

BETAがオレら人間の武器を装備して攻めて来ているのだからな。

しかも、動きもやたら人間くさい上に戦術機の構造上の弱点を正確に狙つてきやがる。数こそ少ないが、そのやり口がえげつない。オレら人間の兵士を生きたまま盾にして距離を詰めてきやがる。おまけに、なかには人語を話してこちらの無線に割り込んでくる奴らもいる。

『JAPより各位へ、たつた今BETA軍より回答があつた』

オレらを殺そうとしてこる連中に聞い合わせをしてマトモな回答が今だに返つてきこえるのに俺は非常に疑問に思つ。

『我々、BETA軍は合衆国に対して進軍を行なつていない。合衆国にいるBETAは、自ら御礼参りに行きたいと自主的に行動している連中だ。よつて、我々は何も関係しない。煮るなり焼くなり好きにしろ』だそうです』

自主的にだと!?

本来BETAは『あ号標的』の支配下に置かれており、命令なくして動くことなどありえない。しかし、今回暴れでいるBETAどもは特別製だ。愛玩用BETAの代金として受け取つた者の脳をBETAに移植して完成した新型だ。要するに、人間であつた頃の自我を持つBETAの完成である。だが、この事を知る人類はまだいない。

『ザーラー、ザ…モ、聞こえるか。合衆国の糞兵士ども』

「おー!! BETAの連中が通信網に割り込んできた。やつらと、見つけ始末しろ!!」

俺の家族は、先日謎の難民キャンプ消失事件で連絡がつかない。恐らくは、BETAに連れ去られたともっぱらの噂だ。騒ぐ連中には、愛玩用BETA欲しさに難民を売ったと言っている奴もいるが、俺は違うと信じている。難民の俺を受け入れてくれて、戦術機の兵士にまで育ててくれた合衆国がそんなことをするはずがない。

だから、俺は合衆国の為にもここを死守する!!

それが、家族を連れ去ったBETAへの復讐でもあり、合衆国への恩返しでもあるからだ!!

『我々は、この国に売られた者たちの末路だ。そして、BETAの手によつて脳をBETAに移植されこの場にいる。なぜ、我々がこのような目にあわなければならぬ!! 我々は、レイア様のご行為により自主的な行動を許されている』

な、なんだと!!

『前置きは、どうでもいい。我々が言いたいこと一つ!! 貴様ら皆殺しだあああああああ!!』

通信がきた。

合衆国に売られた? 自我をもつていい?

そんな事を言われても、どうしようもない。話し合いで分かり合えるはずがないな。B E T A の親玉を様付していた時点で洗脳されているのは明白。しかも、本人たちは自覚なしだ。俺に元同胞を殺せつていうのか…家族がいるかも知れないのに。

『重光線級に狙われている!! 至急回避行動を取れ』

オペレータから緊急通信がはいった。

俺が放心している間に狙われていたようだ。とりあえず、回避行動を…

「さよなら、あなた」

え!!

「まつてく…」

私に狙いを定めているB E T A から妻の声が聞こえた!!

ドカ——ーン

重光線級から放たれたレーザーによつて私がいるコックピットが消滅した。

## 17話・別れと再会

今日も「機嫌のレイアです。

さて、今日はどこの国を攻めようかな。日本と合衆国は最後に取つておくれりだ。

世界地図に向かってダーツを投げた。

その地図は、既に全体の8割が真っ赤に塗られている。その塗られた箇所がBETA軍の制圧した国家になつている。そして、本日の獲物は…また聞いたことがない小国だ。

「アダム…」Jの国の詳細なデータを

「ただいま、お持ちいたします」

イブが消滅したので、再生産が完了するまでアダムを秘書にしている。決して、アーベのよつな趣味で男を近くに遣えさせているわけではない。

アーベ…久しぶりに名前を口に出したのだが、いい加減誰か迎えに来てくれないかな。それに、何だかんだでテファや娘たちがいないと寂しいです。

「レイア様、資料を持つてまいりました。それと横浜から通信が来ております。なんでも至急レイア様にお繋ぎして欲しいとの事です」

横浜と言えば…あの魔女が居る国か。

原作では、随分と頑張っていたが今では食糧難がピークに達しそうな極貧国だ。イナゴーの働きと世界中のあらゆる分野での生産力低下に伴う影響をモロに受けているからな。

さて、どんなネタで私を楽しませてくれるかな。

### 「構わん繫げ」

今日は、ホットチャイか…眞いな。じうじう、贅沢が出来ない人たちが可哀想だ。そうだ、BETA軍の直営所を各国に作って、食料をポイントで交換できるようにしてあげようかな。これで食糧難に困る人々が減ること間違いなし!! きっと、救われた人々から感謝されること間違いないね。

『レイアさん、見つけました~』

『ブーーーーゴッホゴホゴホ』

予想の斜め上を行く展開で、飲んでいた紅茶が気管に入った。まさか、このよつたな手で私を苦しめてくるとは… さすがは、横浜の魔女だ。

といふか、なんでテファがここに!!

落ち着けレイア。もしかしたら、これは相手の罠かもしれない。こうこう時こそ、落ち着くんだ。

『どうせ、敵の罠じゃないか とか 静まれ俺の右腕とか くだらない事を考へて いるに違ひ無いな』

『ビ、ビダーシャル!! なんぞ、ここにいるんだよ。ついでに勝手に人の思考を読むんぢやないよ。後、俺の右腕が!! とか全然考へてない

から』

『ちやんと、乳酸菌とつてゐる？お父様』

……

テフアとビダーシャルと水銀燈。一体、人類が何をしたいか理解に悩むよ。私だけで飽き足らず、最凶の連中まで呼び寄せて…本当に何を考えているんだ。

『久しふりだね。ちやんと、『飯は食べているかいテフア。紅茶（醤油）は、一日一リットルまでだよ…ちやんと守っているかい水銀燈。いい加減、いい年なのだからいい人見つかったかいビダーシャル』

『はやく、レイアさんの『飯が食べたいです』

『一リットル？なんの話かしら…全く記憶にないわね』

『大丈夫だ、問題ない』

どうやら、みんな思つたより元気そうだな。もつと、私が居なかつたことに悲しんで欲しかつたよ。実際、一度は『』の世界で死にかけたのだからさ。少しくらい、心配だつたよとか言つてくれてもいいんじゃないかな。

三人の映像がいきなり切り替わつた。

『そういう事よ。あの三人がどういった力を持つてゐるかは知らないけど、今三人が居る部屋には、合衆国が所有してゐるG弾の半数が設

置かれているわ。これがどういう事かわかるわよね？ 私たち人類は、あなたと交渉の場を設けることを望むわ』

交渉の場か… 隨分とハードを下げてきたな。人類を見逃せではなく、妥協点を探す方向に倒れたか。

まあ、全く信じていないのでね。

だつて、G弾が出てくることは利権が大好きな合衆国や日本も一枚も一枚も絡んでいるってことでしょう。水銀燈だけなら、交渉の場に出たかもしれないが… ビダー・シャルやテファアがいる以上、G弾で死ぬことはありえないだろう。

だつて、私よりチートだからね。

『だが、断る!!』

『あ、あんた自分の妻と娘、親友を見捨てるつもり!! 悪いけど、こつちは本気でG弾を使うつもりよ。G弾の威力は、あんたが身をもつて経験しているはずだから一番分かっているでしょう!! 死ぬわよみんな』

はつはつはつはつは

『確かに、私のような中堅では生存率はかなり低いだろう。だが、君たちが接待している連中の内一人は、私より確実強いのだよ。だから、構わんよ』

あの三人の事だ。私がこの星に居る事さえわかれば位置を掴む事もできるだろう。恐らく、今はテファアが飯に夢中の為、こちらに来ていなければだろうな。人類側は、なけなしの天然物を大放出中ときて

しる…まつたぐ「苦労なことだ。

では、私は三人の受け入れ準備と後片付けに入らう。

『それでは、人類の皆さん 楽しい余生を…』

『まちな……』

通信を遮断した。

さて、立つ鳥 後を濁さずとあるし…残った連中も掃除しちゃいますかな。

後日、妻子と親友との再開をレイアです。

私の感が正しければ、もうすぐあの三人がここに来るはずだ。念の為、三人の襲来に備えてB E T A軍全体に知らせは出している。下手に迎撃に当たられてもこちらの戦力が減るだけだからね。素直にお通ししろと…。

さて、ではゴミ掃除を始めますか。

『全てのB E T Aに通達する。サーチ＆デストロイ!! サーチ＆デストロイ!! 人間を発見次第速やかに排除せよ。ハイブ周辺の人類をひとり残らず殲滅せよ』

制圧した国家の地下や山奥などには、まだ少ないが生き残りもいるだろう。そういう連中を含めて皆殺しである。そして、ハイブ周辺の掃除が完了次第、残りの国家を制圧する。

今頃は、我が軍が貸し出したB E T A達も速やかに行動を実施して

いるはずだ。先程まで従順だったBETAが牙をむいてくるとは予想もしないだろつ。

さて、次の仕事に取り掛かるか。

「アダム、全BETA軍兵士に通達をだせ。今すぐ、『旧あ号標的』があつた場所に全員集合しろと。従わない場合は、排除して構わん」

「かしこまりました。直ちに実行いたします」

BETA軍兵士よ……悪いが、仕事がなくなる以上、解雇だ。今まで、ほかの連中と比較して充実した日々を遅れたのだから悪く思わないでくれよ。

それに、最初から明言しているように……人類の殲滅こそが目的だ。その中には、当然お前らも含まれているのだよ。

「それと科学者達は、脳を摘出しておけ。後から知識だけ吸い出す

「かしこまりました」

BETA軍には、人間を脳だけの状態で生存させる技術があるのは本当にありがたいわ。これで、星に帰つてからもG弾の研究などが続けられるのだからね。

旧あ号標的が居た大昼間にて。

「諸君、私は後数日で元いた星に帰る事になるだろつ。よつて、本日をもつてBETA軍を解散とする。本日までよく働いてくれた

ザワザワ

集まつた人々から騒ぎ出した。

「我々は、どうなるのだ？」

良い質問だハムの人。

「みんな仲良く死んでもらう。当然、今まで働いてきた労をねぎらひ、希望する死に方での世に送つてやる。むろん、歯向かつてきてくれても構わんよ。手間が省けるから、是非とも歯向かつてきてくれ」

大広間を囲むように重光線級のBETAが現れた。

「な……なんだと!!」

「ふざけるな——」

「なんでもするから、助けてくれ」

……

……

……

命乞いをする連中は、どうこう神経をしていいのだ。そう言ってBETA軍に助けを懇願してきた連中を無慈悲に殺してきたのだらう。

その報いを受けるのは、至極当然。

「ならば、俺は腹上死を希望する!!」

大胆不敵に刹那が一声を挙げた。しかも、その願いは実に男らしい

物でこのレイア感服いたしました。

「許可しよう。特別に、既に生産済みの愛玩用BETAを好きなだけ連れていくて構わない。他には誰もいなか？数に限りがあるぞ!!」

「俺もだ!!」

「俺も腹上死で死にたいぞ!!」

「私も!!」

刹那に賛同するように次々と志願者が出てきた。中には女性も居たが…腹上死って女性にも適用される死に方だつてな。良く分からんが、問題ないか。

グラハムと刹那が部屋を退場していくのが見えた。

「グラハム 刹那 私が憎いか？」

「全く、むしろ感謝しているくらいだ。短い間だったが同胞にあえて楽しい時間だつた。さらばだ 友よ」

「完全に同意。また、来世で会おう」

「ああ、私も楽しかったよ。さらばだ 友よ」

同郷の者に別れを告げた。

十数分後。

「ほかの連中はいいのか？最後くらい欲望に埋もれて死にたい奴はお

らんのか？至高の快楽を約束するぞ！」

しばらくすると、広間から人気がなくなつた。みんな思い思いの愛玩用BETAを連れて最後の一時を楽しんでいるようだ。残った連中には、IJのレイア自らが安樂死をやれやれといひ。トキよつ授かつた北斗有情拳でほうむつてくれよ。

「最後まで良く私にいくしてくれた。安心してあの世に行くが良い！！  
北斗有情拳！！」

快樂の中死んでいく者たちの断末魔が聞こえた。

これにてBETA軍は、消滅した。

レイア私室にて。

フンフンー

私の勘では、テファア達が後数分でIJIJへると告げてゐる。私は皆を迎える為に料理中だ。

みんな、喜んでくれるだらうか。私の腕は落ちていらないだらうか。そう言つた不安は、あるが…今はみんなと食事ができる事が楽しみで仕方がない。

「ハハハ

部屋の扉がノックされた。

どうやら、我愛妻のIJ到着のようだ。

「おかげり、テファア、水銀燈。後…おまけでジーダーシャル」

「えへへ、ただいまです レイアさん～～」

おつと、テファアが飛びっこてきた。

相変わらず、私のテファアは可愛いな。頭をナデナデすると、まるで子犬のように喜ぶんだよね。やっぱり、私はテファアが大好きだ。

「あら、お父様私には何もないの？」

はいはい、醤油を浴びるほど飲ませてあげるよ。可愛いBETAたちが作った商品が沢山あるからね。

「探すのにどれだけ苦労したと思つていい。全く、未来の事がなれば…ブツブツ」

なにやら、イミツな事をジーダーシャルがつぶやいている。

「すまなかつたね。後、みんな ありがとうね」

「レイアさんの為なら火の中水の中です!!」

テファアが元気に返事をするが…私がこんな場所にいるのは、君のせいなのだが（汗）とは、空気が読める私はそんなことは居ない。

## 最終話・掃除

気が付けば大分時間が経過した気がするが氣のせいだろ？と思つレイアです。

ビダーシャルとテファ、水銀燈と合流し美味しくお食事をさせていただけました。そして、私が居なくなつてからの出来事をいろいろ聞かされて若干…いや、本氣で顔が青ざめてしまつた。

まさか、私が居ない時にテファが『レイアさんがいないうちに料理のお勉強です』とか言い出して、台所を占拠していったとは。しかも、試食としてテファに強制召喚されたエルフ達で死体の山を作り上げたり… テレポートの応用で料理だけ相手の胃袋に転移させてテロを行つていたとは本当に申し訳ない。最終的にビダーシャルが生贊になることで終止符を打つた模様だが… エルフの方々に計り知れない迷惑をかけてしまつたともうわけない気持ちでいっぱいです。

「で、これからレイアはどうするんだ？ 無論、帰るにしてもタダで帰るわけでもあるまい」

「もちろんとも、事故に近いとはいえた私を死ぬ直前まで危険にさらされたのだ。それに、テファの力で容姿のみを復元したから良かつたが、今回の御代はきつちり払つてもらいますよ」

そう、テファの力により私は元の姿を取り戻したのだ。無論、「あ号標的」としての能力を維持したままでね!!

「どんな姿になつても私はレイアさんが大好きですから、問題ありますせん」

「あらがうひトフア。私も大好きだよ」

……

ビダーシャルから生暖かい視線が突き刺さるが…問題ない。所詮、独身者の僻みというやつだ。それにしても、ビダーシャルには女の気配の一つすら感じないのは改めてなぜだろ?と思つてしまつ。頭脳、容姿、家柄、能力、地位どれをとっても同じの上ないほど上位に位置するといつに…性格に問題があるのであるのだろうか。もしくは、特殊な性癖でもあるのだろうかと疑つてしまいたくな。

「今、とてもなく失礼な考え方をしなかつたか?」

す、鋭い。

「うふ!! でも教えない。…で、話を戻すけどね。帰る前に、この星を掃除しないといけないと悪いのよ。飛ぶ鳥跡を濁さずついて言つじやん

ん

「この星の連中程度を滅ぼすなど、今のレイアなら苦労などしないだろ? それをわざわざ確認してくるところとは…何が欲しいんだ?」

「流石ビダーシャル!! 話が分かるね…お勧めの玩具を貸してよ」

ビダーシャルの事だ。きっと、何か面白いものを持ってくるはず。某未来の猫型ロボットみたいにどこからか持つてしてくれる。

「あ、ビダーシャルさん。以前にアーベさんと//サシタさんにテスト

してもらつたあの玩具がいいです!!

突然、テファが話に割り込んできた。

……アーベとミチシタがテストした玩具だと!! というか、私が思っている玩具と別方向の玩具じゃないよね。いやいやいや、仮に【大人の】とつく玩具だった場合にその状況をテファアが知っていること自体おかしい。

だ、旦那がいない隙に……とか展開などないと信じたい。テファに限つてそんな事ありえない。……もし、そうだつたらビダーシャルを殺して俺も死のう。

まずは、上位エルフであるビダー・シャルを殺すのは並大抵の手段では不可能だ。搦め手で行くしかないな。

安心しろレイア。玩具というのよ。

100

ビダー・シャルから玩具とは何かというネタばらしをされて一安心

1

早急にアダムに全世界へメッセージを発信すべく準備をした。

『全世界のみなさん、今代の「あ号標的」である私ことレイアは、この

たびお迎えが来たので星に帰ろうと思ひます』

その瞬間、世界各地の様子を映し出しているテレビ画像から歓喜の雄叫びが上がった。

『だけど、今までお世話になつた人類の方々に何の挨拶もしないで帰るのは申し訳ないと思う。本日から一週間後、生き残つた国々を回りお礼ま...挨拶をして回らうと思います。ちなみに、アメリカから回るので可能な限り戦力を集めておく」とをお勧めしますよ。挨拶に行くのは私と妻のテファアだけなので...撃退できれば人類の勝利です』

まあ、万が一にも死んだとしても即座に蘇生されるから撃退とか不可能なのだけどね。おまけに、私が居なくなつたとは後任の『あ号標的』が月からくる手はずになつてゐる。当然、後任の『あ号標的』は私のような遊び心を持つていないので人類殲滅に専念するだろう。

そんなことまで教えてあげないけどね!!

『では、人類のみなさん一週間後にアメリカの大地で!!』

後日、各国にアメリカへの上陸ポイントを提示した。それから、生き残りの国から動ける戦力がすべて終結されていった。まさに、人類の思いが一つになつた瞬間である。最初から、これほど上手に連携出来ていればB E T A被害もかなり抑えられただろうにと少し思うレイアであった。

一週間後、B E T A本拠地のレイア私室にて。

レイアから指定されたポイントに軍人、兵器、報道カメラなどあらゆるものが集まつていた。人類の存亡をかけた最終決戦等だけあつ

て、場の雰囲気はとてもなく張りつめていた。

「しかし、私が指定したポイントに来なかつた場合とか一切考えてないよね。まあ、嘘をつく氣はサラサラ無いけどさ」

報道カメラの映像を眺めつつ、予定時間になるまで自室でテファアとお茶を飲んでいた。…無論、アメリカからまるか遠くにあるBETAの本拠地の自室で!!

予定時刻の五分前か…

「ビダーシャル…準備のほうは?」

「誰に物を言つているのだ?一週間もあつたのだ、準備には十二分の時間だ」

「ですよね。では、テファアと少し遊んでくるわ…」  
「アーフア

「はい!!」

それにしても、テファアがプラグシーツを着ると本当に悩ましいね。神々しいプロポーションがはつきりと出るしね。まあ、依然と違つてテスト用とは異なり露出は少ないから許せるけどさ!!

さて、新型の性能を見せてもうおつか。

「ハントリー!!」

ダブルエントリーシステムを採用されたビダーシャル謹製の最新型だ。なんでも、アーベとミチシタが乗つた場合は、ビダーシャルのサイバーディにも匹敵する性能を出したとか恐ろしい物だ。まあ、あの

一人の場合は普通に生身で戦つたほうが強いんだけどね…。

では、虚無の【テレポート】で移動させてもらおうか。

ブーン

アメリカの某地点にて。

「ふむ… 予定ポイントに到着だな」

あの距離を一瞬で移動できるとか本当に便利だわ。『あら標的』の頭脳を用いて同じことを再現できないか今度研究してみよう。使徒でも似たようなことをやっていた敵もいたから組み合わせればきっと不可能ではないはずだ。

『て、敵襲 !!』

周りを見る限り、空を飛んでくるとか地中を移動してくるとかそんなことを考えていたようで、突如移動してきた私たちにかなり驚いているようだ。

私とテファーガーがあいさつをするためにエントリー・フラグから顔を出そうと思つた瞬間… 四方よりスコールの「」と弾丸が飛んできた。

ピタピタピタピタ

A・Tフィールドをつかまでもなく、飛来してきた弾丸をすべての弾道と威力を計算し威力を殺し、空中で停止させた。コモンマジックのちょっととした応用なのだが… この世界の人間から見れば摩訶不思議な現象に見えるだろう。自らが放つた弾丸が目標にあたる直前で時間が止まつてしまつたかのじとく停止しているのだからね。

「何事も挨拶が大事だと私は思つただけビ…ビツやら、相手は違ひみたいだね。まったく、酷いよねテフア」

「見てくださいレイアさん…あつちにも沢山ロボットがいますよ」

……

聞いてなかつた。まあ、挨拶があるひとつなかひとつやることは同じだ…では、さよならだ人類!!

手始めに、弾丸を元あつた場所にお返ししよう…某ロリータお得意のベクトル操作じやないが、真似事はできるや。

ズドドドドドド

ちょっと、おまけをして飛んできた速度に二倍の速さでお返してあげた。…これぞ倍返しだ!!

『しねえええええ!!』

戦術機部隊の猛攻撃が始まった。

動きから察するにおそらくエース級の実力だろう。得意の獲物を手にすさまじい速度で距離を縮めてきた。それにして…死ねってひどくない。私がまるでひどいことをした悪人に思われるじゃないか。

人類が長生きするために様々な施策を検討していたというのに

…その思いが伝わっていなかつたなんて絶望した!!

「テファやれるかい？」

「任せてくれ……でも、上から降ってきてこりアレは放つて置いていいんですか？」

私より操縦のうまいテファに遊ばせようと思つたが…テファの指摘で初めてはるか上空から飛来してくる物体を認識した。

米軍がひそかに開発していた「神の杖」…衛星軌道上から地表めがけてマッハ2.0で特殊合金を落下させるだけの極めてシンプルな兵器。だが、その威力は核兵器にも匹敵する…貫通力の面で言えば核兵器以上である。本来の用途は、衛星軌道上からハイブを破壊するために作られた兵器だが…その初めての運用が味方を巻き添えにして私を葬るために利用されるとはね。

「おそれらへく、末端の兵士達には知らされていないんだろ? テファ、受け止めるよ。できるかい?」

「そのへりこ朝飯前です」

マッハ2.0の飛来物を朝飯前でキャッチできる事自体がすでに異常だと思うのだが…エルフにとつては朝飯前なのだろう。ちなみに

…私は、B E T Aを取り込む前ではそんな芸当は無理だ。A・T・フィールドで防ぐ等の芸当はできるが、受け取るなどムリゲーだよ。

「では、私はこのビットもどきをつかつて戦術機のお相手をしましょうか…さてさて、原作とは異なり50個近くあるビットを防ぎきれるかね…」

行けファンネル!!

その瞬間、新型エヴァに搭載された50個のビットが一斉に飛び出し戦術機に襲い掛かった。このビット…私がエヴァ本体に搭乗していることによりA・Tフィールドすら発生させることが可能であり、A・Tフィールドを纏い高速で縦横無尽に飛び交うビットを戦術機で回避するすべなど存在しなかつた。人類の英知の結晶ともいえる戦術機がまるで紙屑のように瞬く間にズタボロになっていく様子をみると心がスワードした。

人類を使ってお互い殺し合わせるのも楽しかつたが、やはり自分の手で恨みを果たすほうがすつきりするな。

ズドウーン

鈍い音がしたと思つたら、エヴァの両手…そして、内蔵されたもう2本の腕の計四本の手にそれぞれ金属体が握られていた。周囲への被害がないことから落下による衝撃はエヴァの能力で「無かつた事」にされたのだろう。

「ちゃんとキャッチできましたよ!!」

「えらいねテファ…じゃあ、それを元あつた場所にお返ししようか…  
鍊金!!」

メキメキメキ

つかんだ金属を一つにまとめて…一本の槍を作り上げた。若干、材料が足りなかつたのでそこらへんに散らばっていた戦術機の残骸を利用した。我ながら実に良い出来だ…以前、野球とは名ばかりのイ力レタ競技で私の胸を貫いたロンギヌスの槍を作り上げた。無論デザ

インだけだけどね!!

「では、テファ…元あつた場所に返して差し上げましよう

「了解です。…………えい!!」

ズドウーノン

立つた半歩の助走での投擲…しかし、飛来してきた速度とほぼ同等のマッハ2.0で目標へ一直線である。

……軽いのつもりで元あつた場所に返そうといったのだが、マジで命中させるのかよ。

これで無粋な邪魔をする物はなくなった。

「では、掃除を始めようか」

その後…わずか一日で米国という国が事実上滅んだ。生き残つていた国家も順番に帆掃除されていき、レイア参戦からわずか三日でほぼすべての国家が機能しなくなり、二三日目の夜にレイアは懐かしの故郷へと帰還したが、四日目になり月から新たな「あ号標的」が地球上に来たため、事実上人類は滅亡した。

レイアの束の間の冒険はこれにて終了となつた。